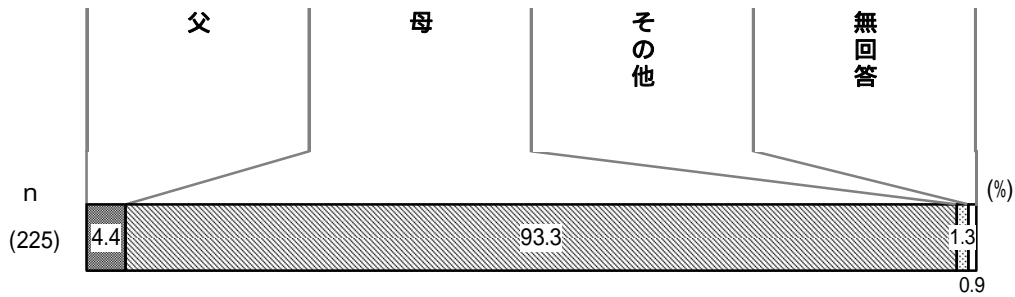


アンケート調査  
(心身障害児の家族)

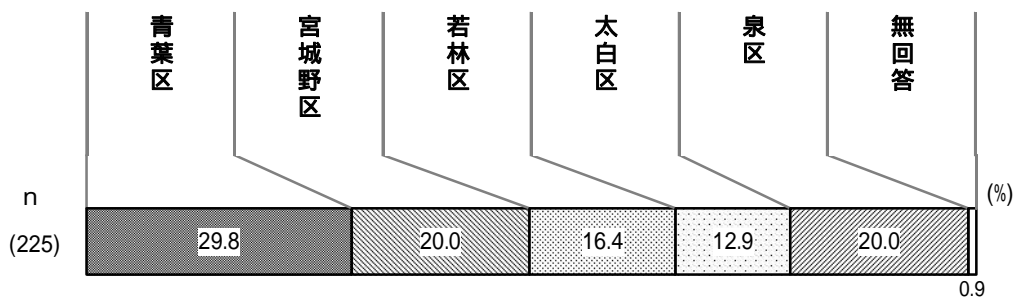
## 1 基本的な属性について

問1 この調査票の記入者は誰ですか。( S A )



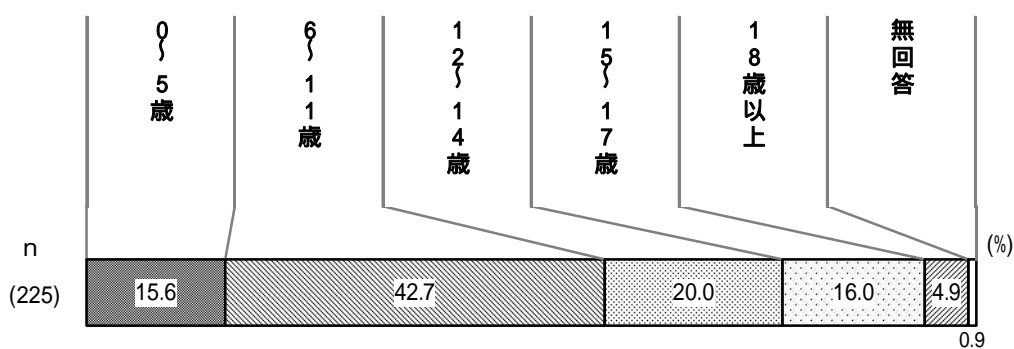
調査票の記入者については、「母」が93.3%を占めている。

問2 あなたのお住まいの区はどこですか。( S A )



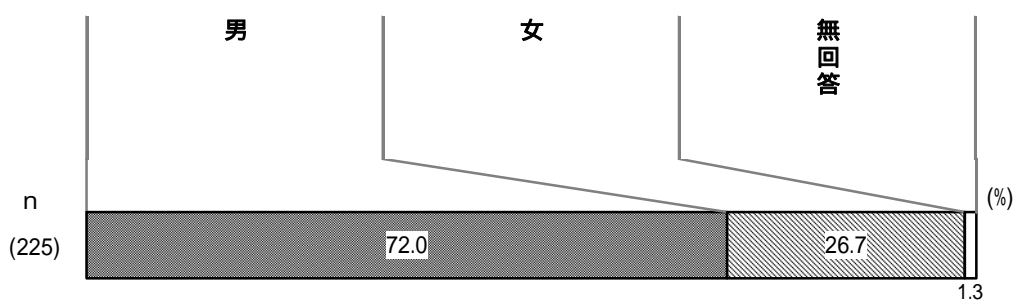
居住区については、「青葉区」(29.8%)が最も多く、以下「宮城野区」、「泉区」(ともに20.0%)、「若林区」(16.4%)、「太白区」(12.9%)となっている。

問3 お子さんの年齢は何歳ですか。(数値)



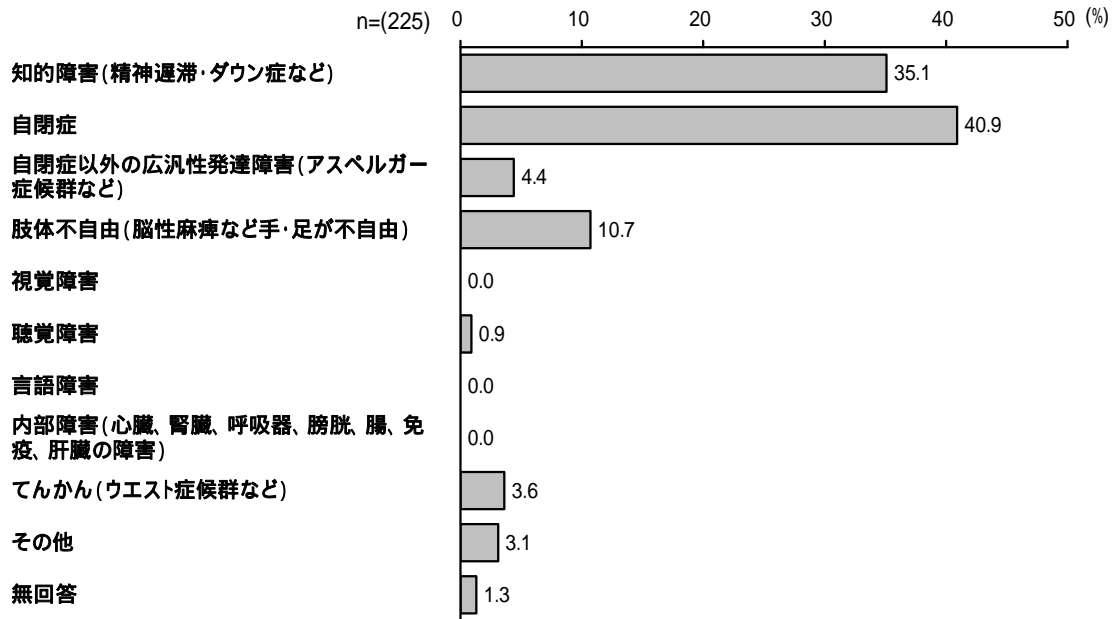
調査対象児の年齢については、「6～11歳」(42.7%)が最も多く、以下「12～14歳」(20.0%)、「15～17歳」(16.0%)、「0～5歳」(15.6%)となっている。

問4 お子さんの性別は男、女のどちらですか。(SA)



調査対象児の性別については、「男」が72.0%を占めている。

問5 お子さんの主たる障害は次のうちどれですか。( S A )



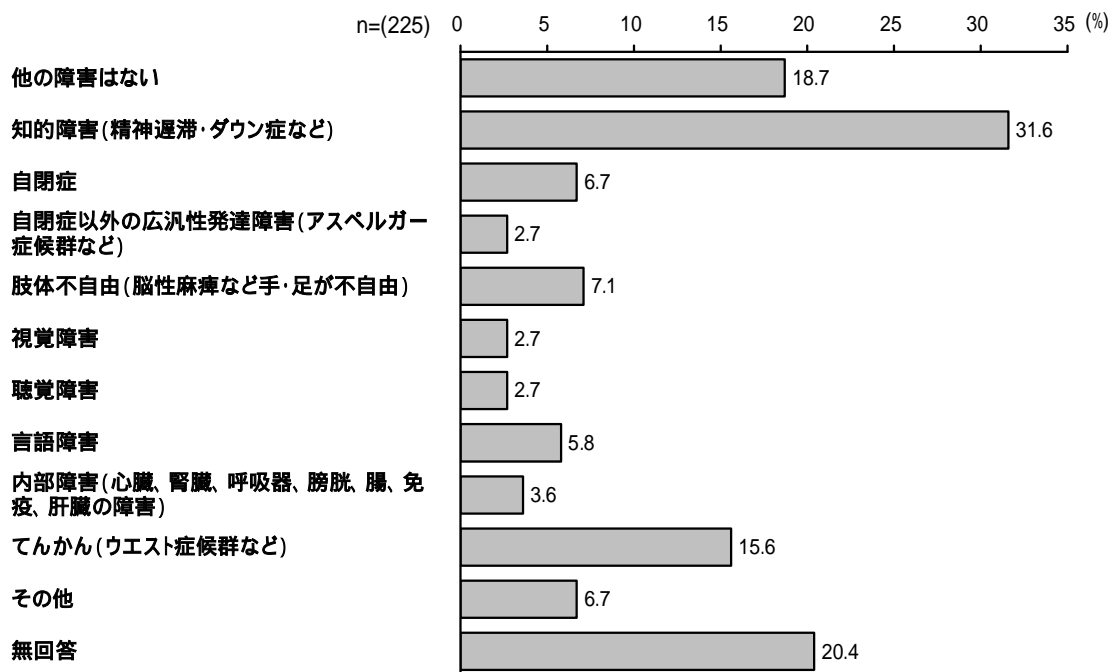
調査対象児の主たる障害については、「自閉症」(40.9%)、「知的障害(精神遅滞・ダウン症など)」(35.1%)がともに多く、以下「肢体不自由(脳性麻痺など手・足が不自由)」(10.7%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	知的障害(精神遅滞・ダウン症など)	自閉症	自閉症以外の広汎性発達障害(アスペルガー症候群など)	肢体不自由(脳性麻痺など手・足が不自由)	視覚障害	聴覚障害	言語障害	内部障害(心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、腸、免疫、肝臓の障害)	てんかん(ウエスト症候群など)	その他	無回答
全体	225	35.1	40.9	4.4	10.7	0.0	0.9	0.0	0.0	3.6	3.1	1.3
0～6歳	47	18.3	12.5	2.1	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	1.1
7～15歳	137	32.1	46.0	5.8	8.0	0.0	1.5	0.0	0.0	5.1	1.5	0.0
16～18歳	39	17.4	17.7	2.6	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0

年齢別にみると、7歳以上では「自閉症」が多くなっている。

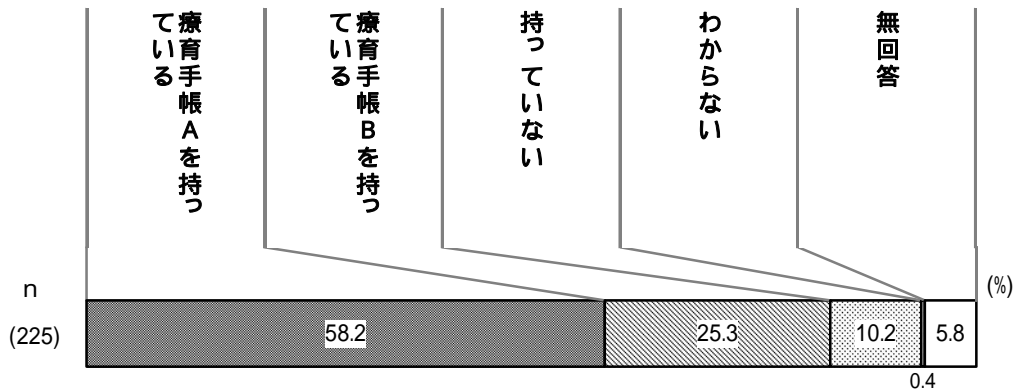
問6 5で選んだ以外に障害はありますか。(MA)



調査対象児の主たる障害以外の障害については、「知的障害(精神遅滞・ダウン症など)」(31.6%)が最も多く、以下「てんかん(ウエスト症候群など)」15.6%となっている。

なお、「他の障害はない」は18.7%となっている。

問7 お子さんは療育手帳を持っていますか。( S A )



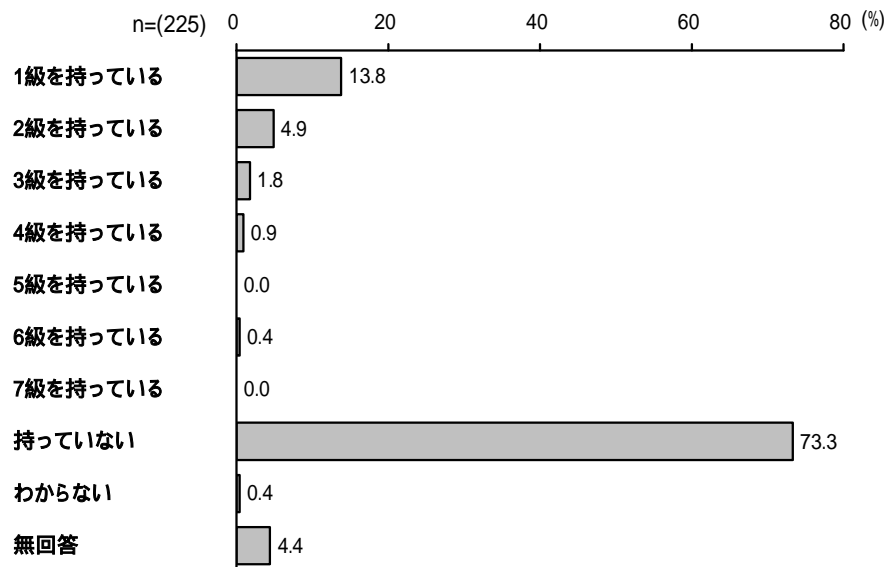
調査対象児の療育手帳の有無については、「療育手帳Aを持っている」(58.2%)が最も多く、以下「療育手帳Bを持っている」(25.3%)となっており、これらを合わせると《療育手帳所持者》は83.5%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	療育手帳Aを持っている	療育手帳Bを持っている	持っていない	わからない	無回答
全体	225	131	57	23	1	13
	100.0	58.2	25.3	10.2	0.4	5.8
0～6歳	47	21	5	18	0	3
	100.0	44.7	10.6	38.3	0.0	6.4
7～15歳	137	84	41	5	0	7
	100.0	61.3	29.9	3.6	0.0	5.1
16～18歳	39	26	11	0	1	1
	100.0	66.7	28.2	0.0	2.6	2.6

年齢別にみると、7歳以上では《療育手帳所持者》は90%以上を占めているのに対し、0～6歳では55.3%にとどまり、「持っていない」は38.3%となっている。

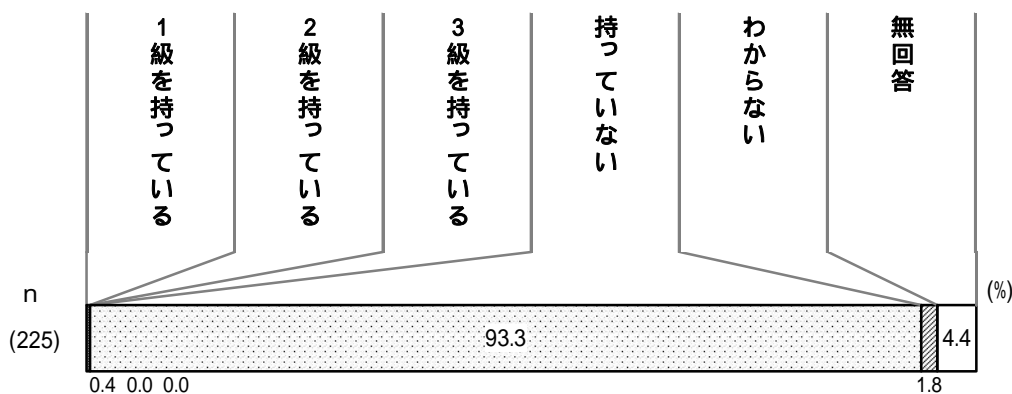
問8 お子さんは身体障害者手帳を持っていますか。( S A )



調査対象児の身体障害者手帳の有無については、「1級を持っている」(13.8%)が最も多く、以下「2級を持っている」(4.9%)、「3級を持っている」(1.8%)、「4級を持っている」(0.9%)、「6級を持っている」(0.4%)となっている。これらを合わせた《身体障害者手帳所持者》は21.8%となっている。

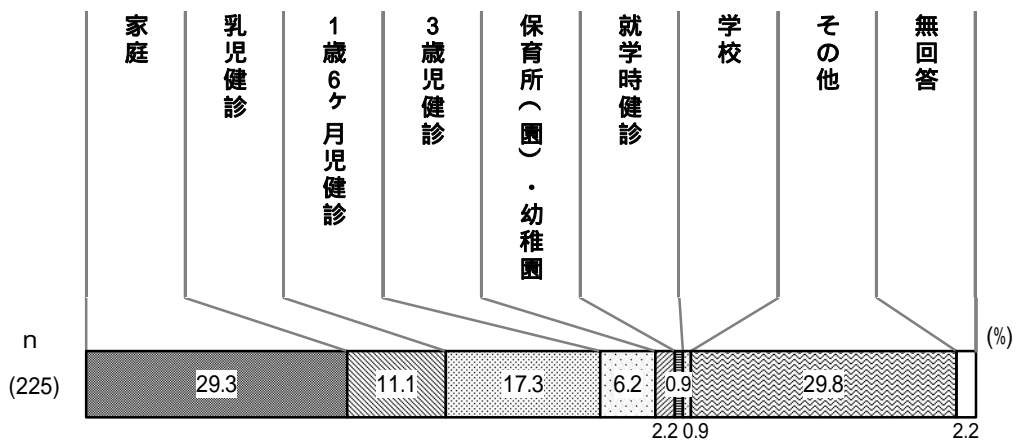
なお、「持っていない」が73.3%を占めている。

問9 お子さんは精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。( S A )



調査対象児の精神障害者保健福祉手帳の有無については、「持っていない」が93.3%を占めている。

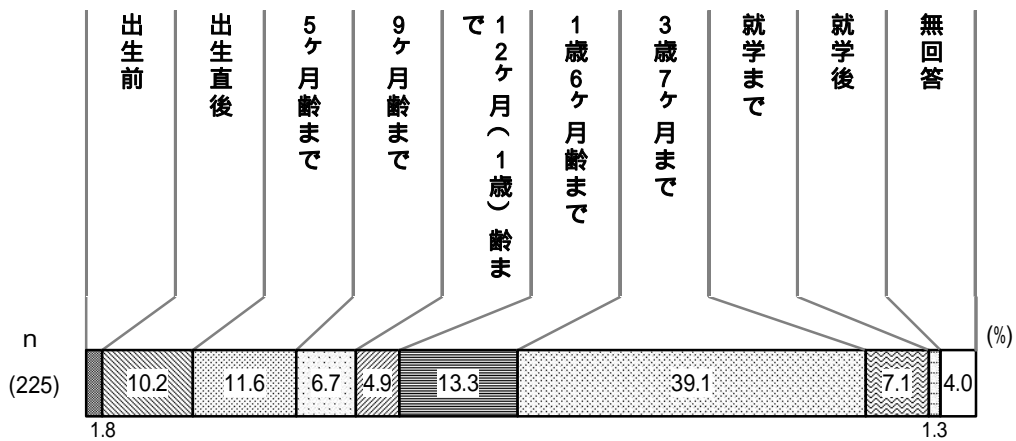
問10 お子さんの障害はどこで気づきましたか。( S A )



子どもの障害に気付いた場所については、「家庭」(29.3%)が最も多く、以下「1歳6ヶ月児健診」(17.3%)、「乳児健診」(11.1%)となっている。

なお、「その他」(29.8%)の内容については「病院」や「出生時」との回答が多くなっている。

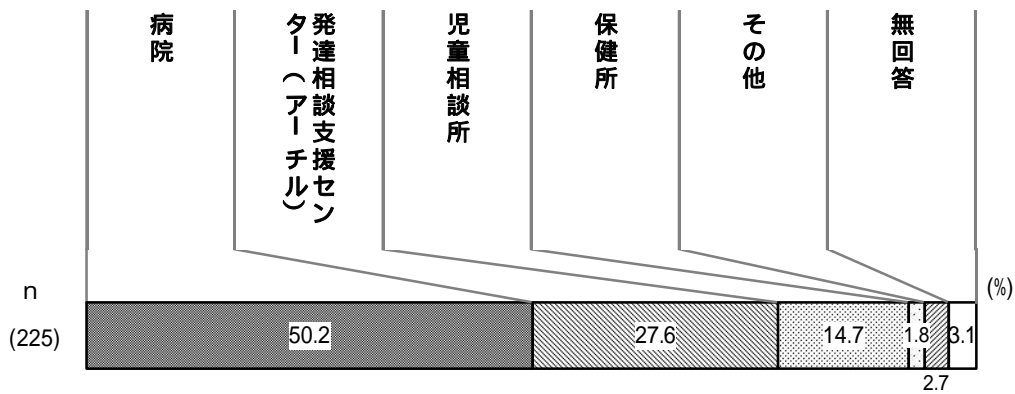
問11 お子さんが障害の診断を受けたのはいつ頃ですか。( S A )



障害があるといわれた時期については、「3歳7ヶ月まで」(39.1%)が最も多く、以下「1歳6ヶ月齢まで」(13.3%)、「5ヶ月齢まで」(11.6%)、「出生直後」(10.2%)となっている。



問12 その診断を受けたところはどこですか。( S A )



障害があるといわれた場所については、「病院」(50.2%)が最も多く、以下「発達相談支援センター(アーチル)」(27.6%)、「児童相談所」(14.7%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	病院	発達相談支援センター(アーチル)	児童相談所	保健所	その他	無回答
上段：件数 下段：%							
全体	225	113	62	33	4	6	7
	100.0	50.2	27.6	14.7	1.8	2.7	3.1
0～6歳	47	27	15	1	0	0	4
	100.0	57.4	31.9	2.1	0.0	0.0	8.5
7～15歳	137	66	44	19	4	4	0
	100.0	48.2	32.1	13.9	2.9	2.9	0.0
16～18歳	39	20	3	13	0	2	1
	100.0	51.3	7.7	33.3	0.0	5.1	2.6

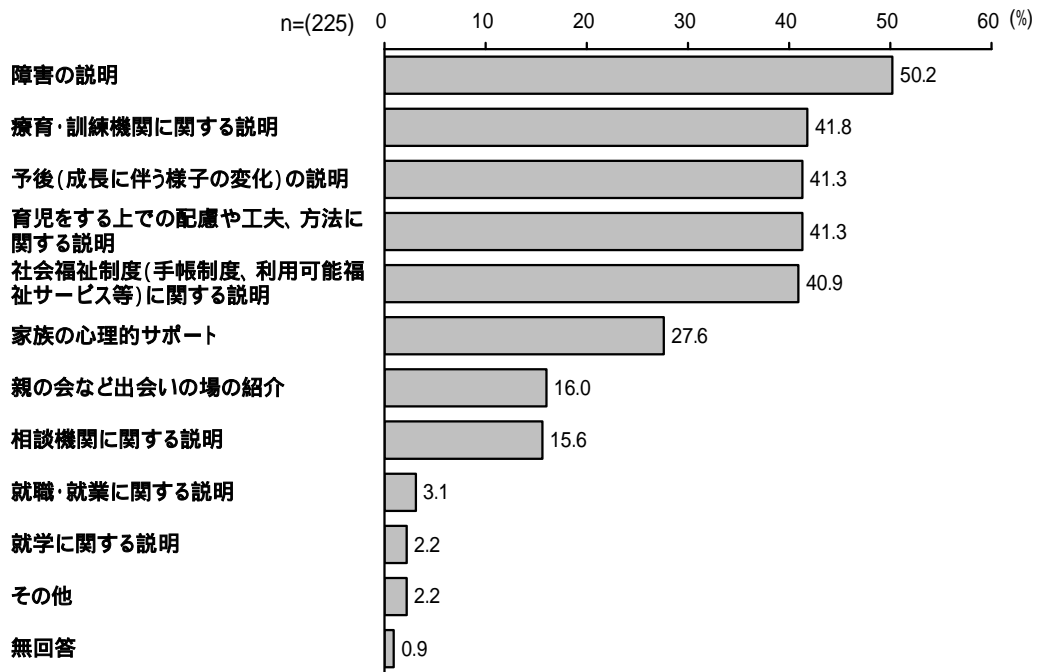
年齢別にみると、15歳以下では「発達相談支援センター(アーチル)」がともに約30%であるのに対し、16～18歳では7.7%と少なく、「児童相談所」が33.3%と多くなっている。

【主たる障害別】

	調査数 (n)	病院	発達相談支援センター (アーチル)	児童相談所	保健所	その他	無回答
上段：件数 下段：%							
全体	225 100.0	113 50.2	62 27.6	33 14.7	4 1.8	6 2.7	7 3.1
知的障害（精神遅滞・ダウン症など）	79 100.0	55 69.6	15 19.0	4 5.1	1 1.3	3 3.8	1 1.3
自閉症	92 100.0	22 23.9	42 45.7	24 26.1	2 2.2	2 2.2	0 0.0
自閉症以外の広汎性発達障害（アスペルガー症候群など）	10 100.0	2 20.0	4 40.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
肢体不自由（脳性麻痺など手・足が不自由）	24 100.0	24 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
視覚障害	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
言語障害	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
内部障害（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、腸、免疫、肝臓の障害）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
てんかん（ウエスト症候群など）	8 100.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	3 42.9

主たる障害別にみると、知的障害（精神遅滞・ダウン症など）、肢体不自由（脳性麻痺など手・足が不自由）、てんかん（ウエスト症候群など）では「病院」、自閉症では「発達相談支援センター（アーチル）」がそれぞれ多くなっている。

問 13 障害の診断を受けたとき、どのような支援があると良いと思いますか。(MA)



障害の診断を受けたとき、あると良い支援については、「障害の説明」(50.2%)が最も多く、以下「療育・訓練機関に関する説明」(41.8%)、「予後(成長に伴う様子の変化)の説明」、「育児をする上での配慮や工夫、方法に関する説明」(ともに41.3%)、「社会福祉制度(手帳制度、利用可能福祉サービス等)に関する説明」(40.9%)となっている。

## 2 日常生活について

問 14 平日の日中、お子さんが主に過ごしている場所はどちらですか。( S A )

(1) 就学前(0~6歳)のお子さん

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	自分の家	親類の家	通園施設(児童デイサービスを含む)	保育所(園)	幼稚園	病院(入院中)	その他
43 100.0	3 7.0	0 0.0	40 93.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

就学前の子どもが平日の日中、主に過ごしている場所については、「通園施設(児童デイサービスを含む)」(40件)が最も多く、以下「自分の家」(3件)となっている。

(2) 学齢期のお子さん

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	障害児のための学校(特別支援学校)	特別支援学級	普通学級	病院(入院中)	入所施設	その他	無回答
182 100.0	111 61.0	65 35.7	4 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.1

学齢期の子どもが平日の日中、主に過ごしている場所については、「障害児のための学校(特別支援学校)」(61.0%)が最も多く、以下「特別支援学級」(35.7%)となっている。

問 15 平日の日中、お子さんはどのように過ごしていますか。(MA)

(1) 就学前(0~6歳)のお子さん

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加
43 100.0	1 2.3	0 0.0	34 79.1	4 9.3	3 7.0	0 0.0	0 0.0	1 2.3	2 4.7	1 2.3	1 2.3

就学前の子どもの平日の日中の過ごし方については、「児童デイサービスを利用」が34件で最も多くなっている。

(2) 学齢期のお子さん

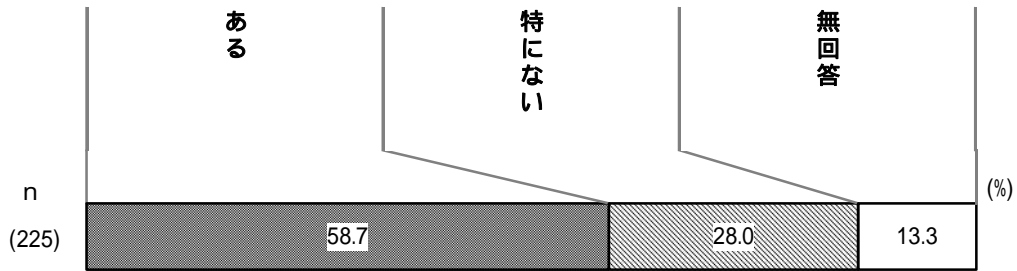
(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加	催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加 催室(催)に催加
182 100.0	140 76.9	6 3.3	3 1.6	2 1.1	4 2.2	21 11.5	41 22.5	13 7.1	

学齢期の子どもの平日の日中の過ごし方については、「障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)を利用」(76.9%)が最も多く、以下「習い事(音楽、スポーツなど)」(11.5%)となっている。

なお、「その他」(22.5%)については「自宅」との回答が多くなっている。

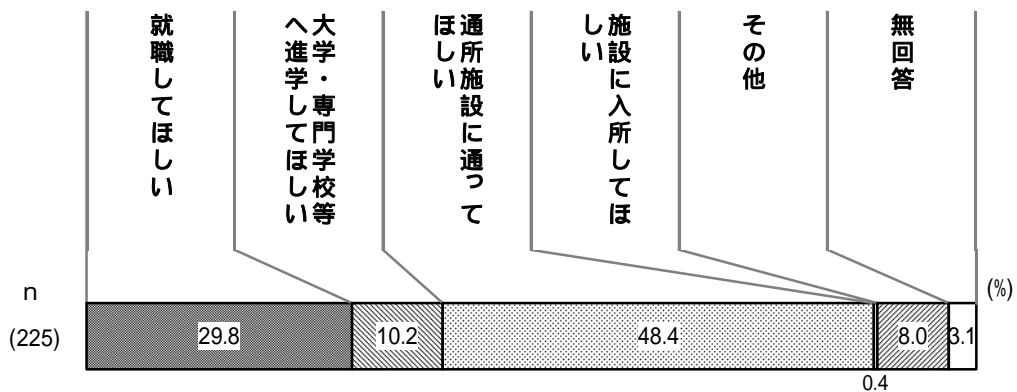
問 16 日中、お子さんが利用できるサービスで、このようなものがあれば良いというものはありますか。( S A )



希望する日中利用できるサービスの有無については、このようなものがあれば良いというものがある人が 58.7%、特にない人が 28.0%となっている。

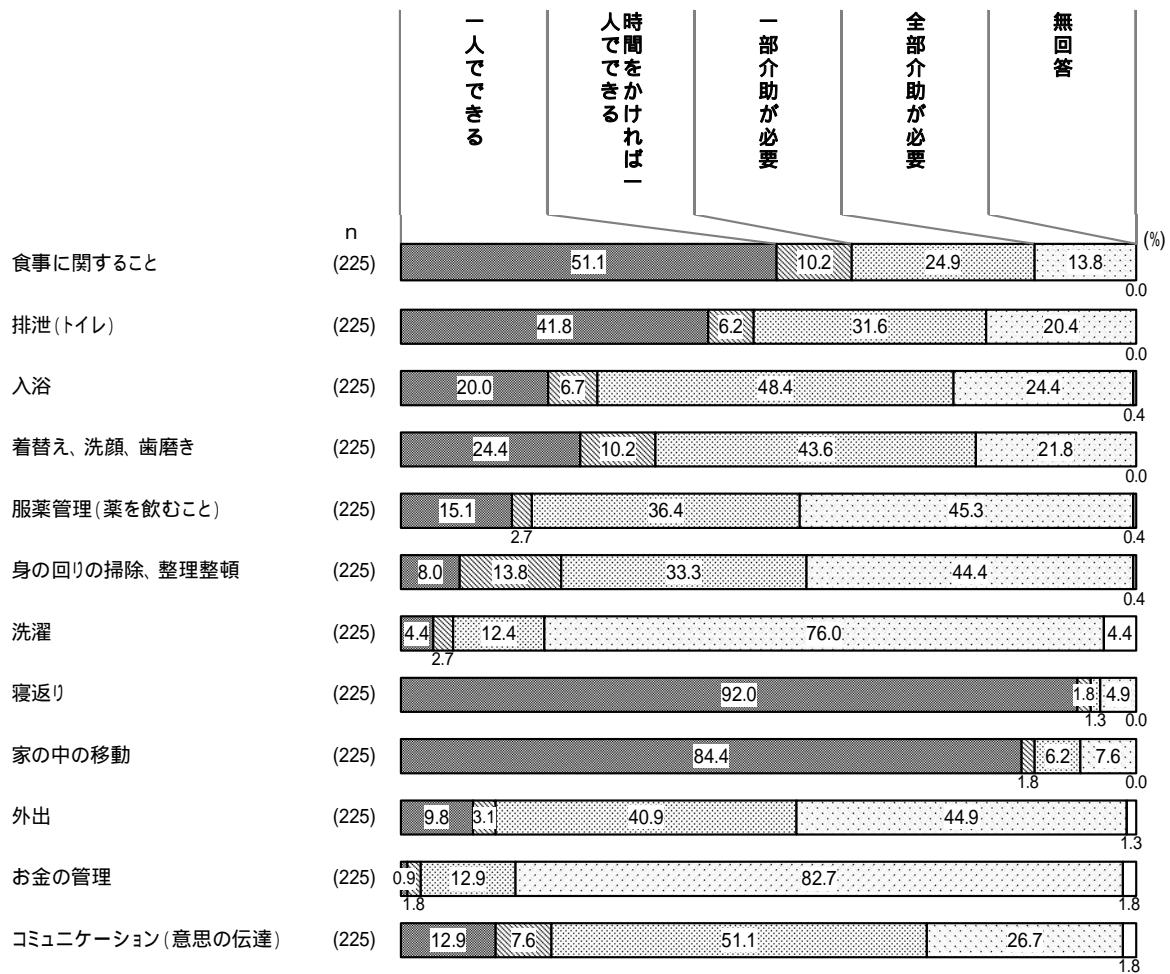
なお、具体的サービスについては、「児童デイサービス施設・サービスの拡充」との回答が多くとなっている。

問 17 お子さんが学校（高校・高等部）を卒業した後の進路についてどのようにお考えですか。( S A )



希望する子どもの卒業後の進路については、「通所施設に通ってほしい」(48.4%) が最も多く、以下「就職してほしい」(29.8%)、「大学・専門学校等へ進学してほしい」(10.2%)となっている。

問 18 お子さんは次の ~ までの動作を、自分ひとりでできますか。この場合、できる、できないの判断は現に所持している補装具や自助具を使用した状態で考えてください。  
( S A )

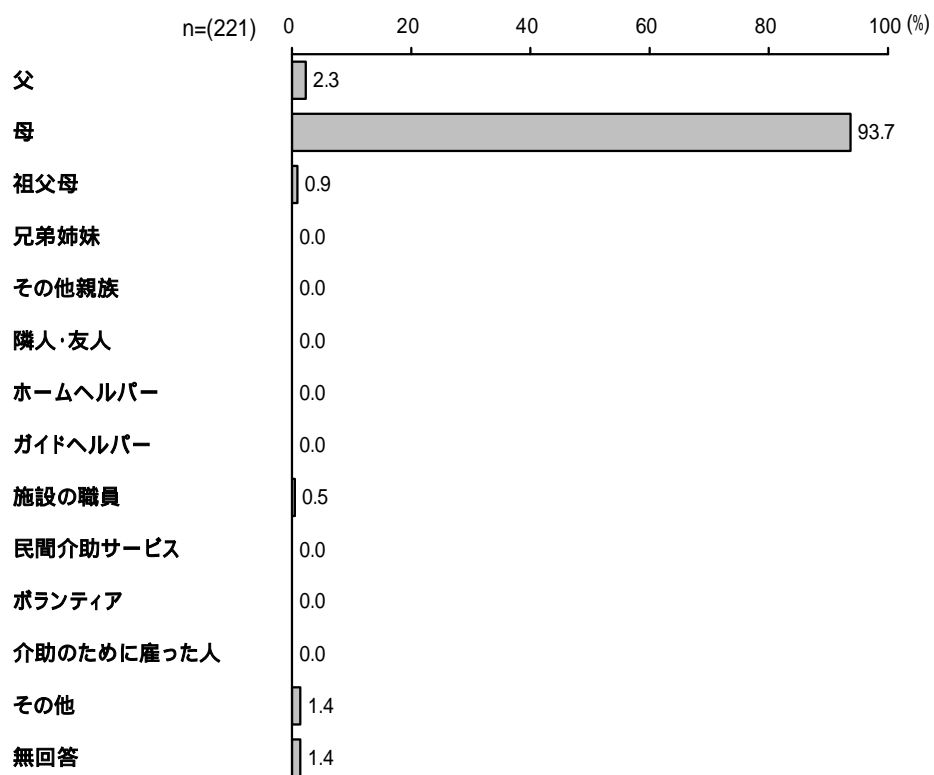


自分ひとりでできることについては、「一人できる」は『寝返り』(92.0%)、『家の中の移動』(84.4%)で80%を超えて多くなっている。

一方、「全部介助が必要」は『お金の管理』(82.7%)、『洗濯』(76.0%)で70%を超えて多くなっている。

問 19 18 において「3 一部介助が必要」「4 全部介助が必要」に 1 つでも をつけた方にお  
たずねします。

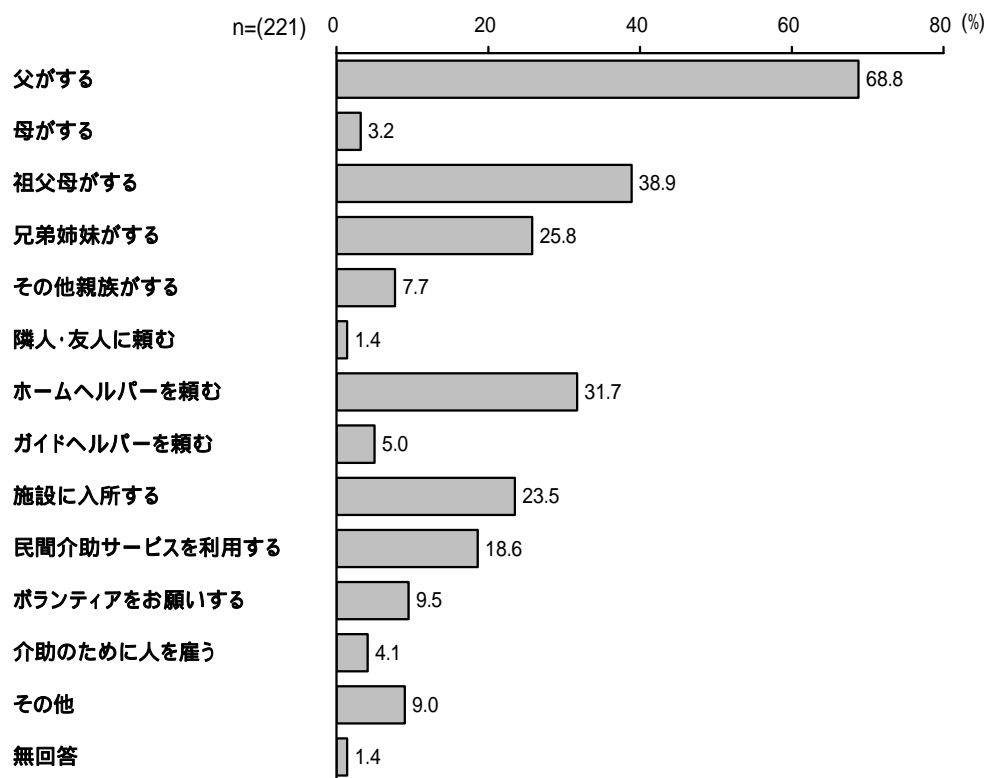
(1) 主な介助者は誰ですか。( S A )



主な介助者については、「母」が 93.7%を占めている。



(2) 現在の介助者が介助困難になった場合どうしますか。(MA)



現在の介助者が困難になった場合の対処については、「父がする」(68.8%)が最も多く、以下「祖父母がする」(38.9%)、「ホームヘルパーを頼む」(31.7%)となっている。

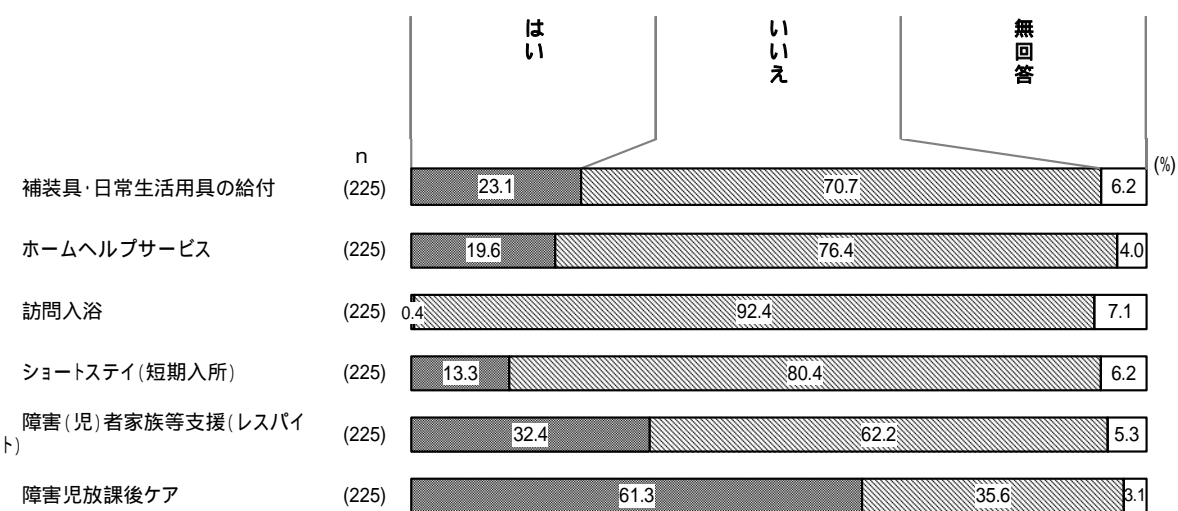
問 20 18において「3 一部介助が必要」または「4 全部介助が必要」に1つも をつけなかった方におたずねします。

介助が必要になった場合どなたに頼みますか。(SA)

調査数 (n)	(上段: 件数、下段: %)													
	父	母	祖父母	兄弟姉妹	その他親族	隣人・友人	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	施設の職員	民間介助サービス	ボランティア	介助のために人を雇う	その他	無回答
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

現在は必要ないが、介助が必要になった場合の対処については、回答がなかった。

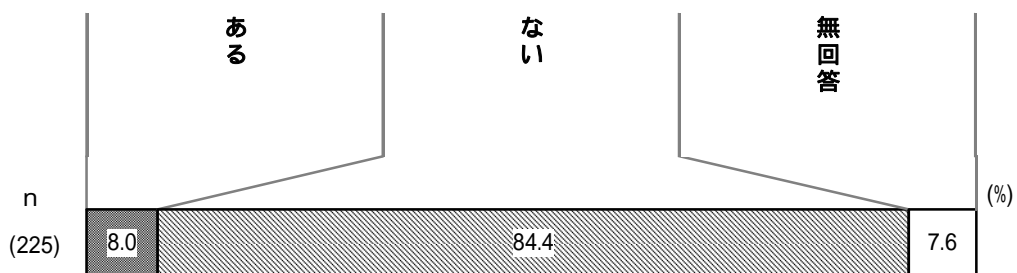
問 21 次の在宅福祉サービスの利用について、それぞれ当てはまるものの番号に をつけて  
 ください。( S A )



在宅福祉サービス利用の有無については、『 障害児放課後ケア』では利用している人が 61.3% で最も多く、以下 『 障害(児)者家族等支援(レスパイト)』( 32.4%)、 『 補装具・日常生活用具の給付』( 23.1%)、 『 ホームヘルプサービス』( 19.6%)、 『 ショートステイ(短期入所)』( 13.3%) となっている。

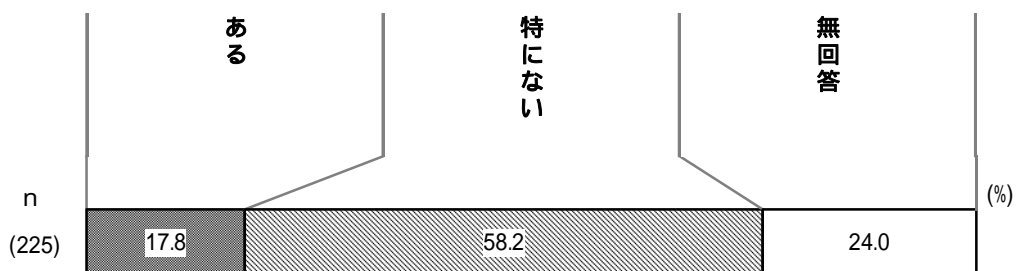
一方、利用していない人は 『 訪問入浴』( 92.4%)、 『 ショートステイ(短期入所)』( 80.4%)、 『 ホームヘルプサービス』( 76.4%)、 『 補装具・日常生活用具の給付』( 70.7%)、 『 障害(児)者家族等支援(レスパイト)』( 62.2%) で 60% を超えて多くなっている。

問 22 21 の ~ 以外に利用したことがある在宅福祉サービスはありますか。( S A )



他の在宅福祉サービス利用の有無については、利用したことのない人が 84.4%を占めている。  
なお、利用したことがあると回答した人(8.0%)の利用内容については「移動支援」との回答が多くなっている。

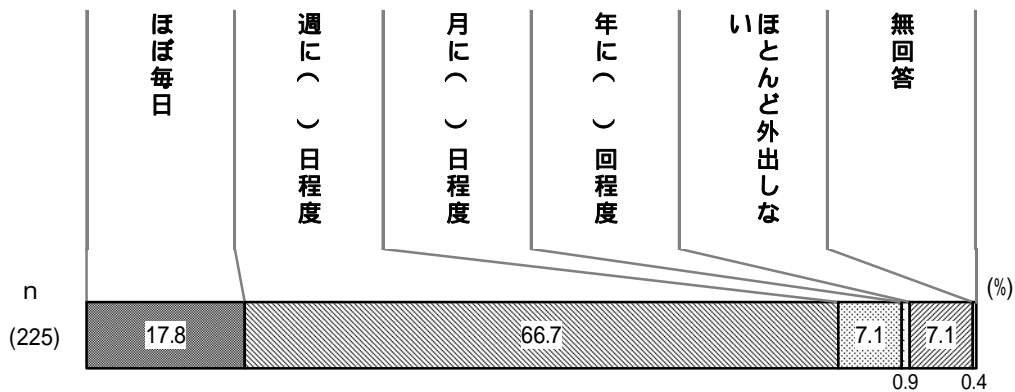
問 23 在宅福祉のサービスで、このようなものがあれば良いというものがありますか。( S A )



あれば良いと思う在宅福祉サービスの有無については、このようなものがあれば良いというものがある人が 17.8%、特にない人は 58.2%となっている。

### 3 社会参加について

問 24 余暇活動などへの参加についておたずねします。お子さんは通園、通学、通院以外でどの程度外出していますか。( S A )



#### 【週に数日程度 内訳】

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	1日	2日	3日	4日	5日以上
150	24	53	38	22	13
100.0	16.0	35.3	25.3	14.7	8.7

#### 【月に数日程度 内訳】

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	0日	2日	4日	6日以上
16	0	8	3	5
100.0	0.0	50.0	18.8	31.3

#### 【年に数回程度 内訳】

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	0日	10回以上
2	2	0
100.0	100.0	0.0

通園、通学、通院以外の外出頻度については、「週に数日程度」(66.7%)が最も多く、以下「ほぼ毎日」(17.8%)、「月に数日程度」(7.1%)、「年に数回程度」(0.9%)となっている。

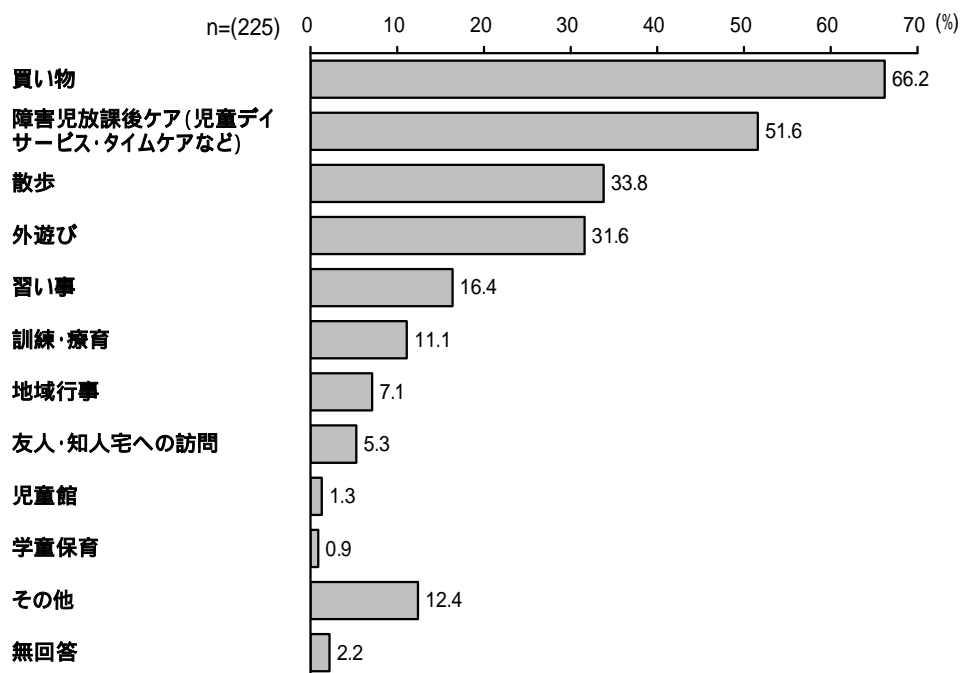
なお、「ほとんど外出しない」は7.1%となっている。

また、「週に数日程度」の内訳については、「2日」(35.3%)が最も多く、以下「3日」(25.3%)、「1日」(16.0%)、「4日」(14.7%)、「5日以上」(8.7%)となっている。

「月に数日程度」の内訳については、「2~3日」(8件)が最も多く、以下「6日以上」(5件)、「4~5日」(3件)となっている。

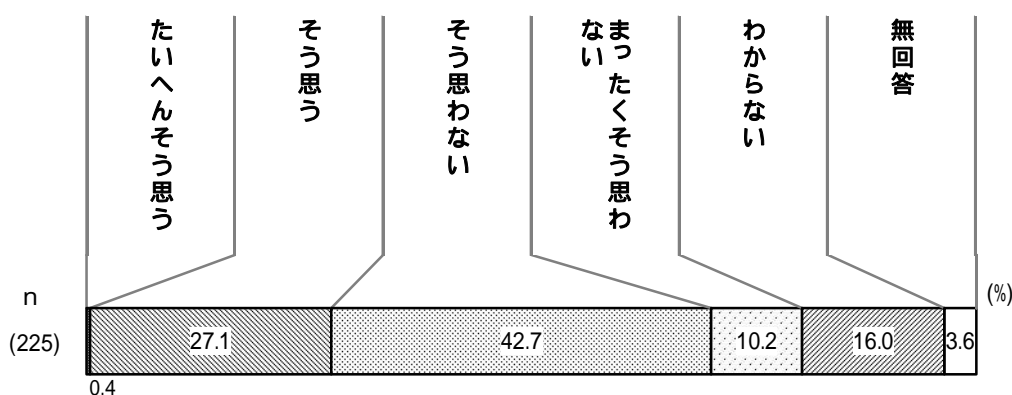
「年に数回程度」の内訳については、2件とも「0~9回」となっている。

問 25 お子さんの外出の目的は何ですか（通園、通学、通院を除く）（MA）



通園、通学、通院以外の外出の主な目的については、「買い物」(66.2%)が最も多く、以下「障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)」(51.6%)、「散歩」(33.8%)、「外遊び」(31.6%)となっている。

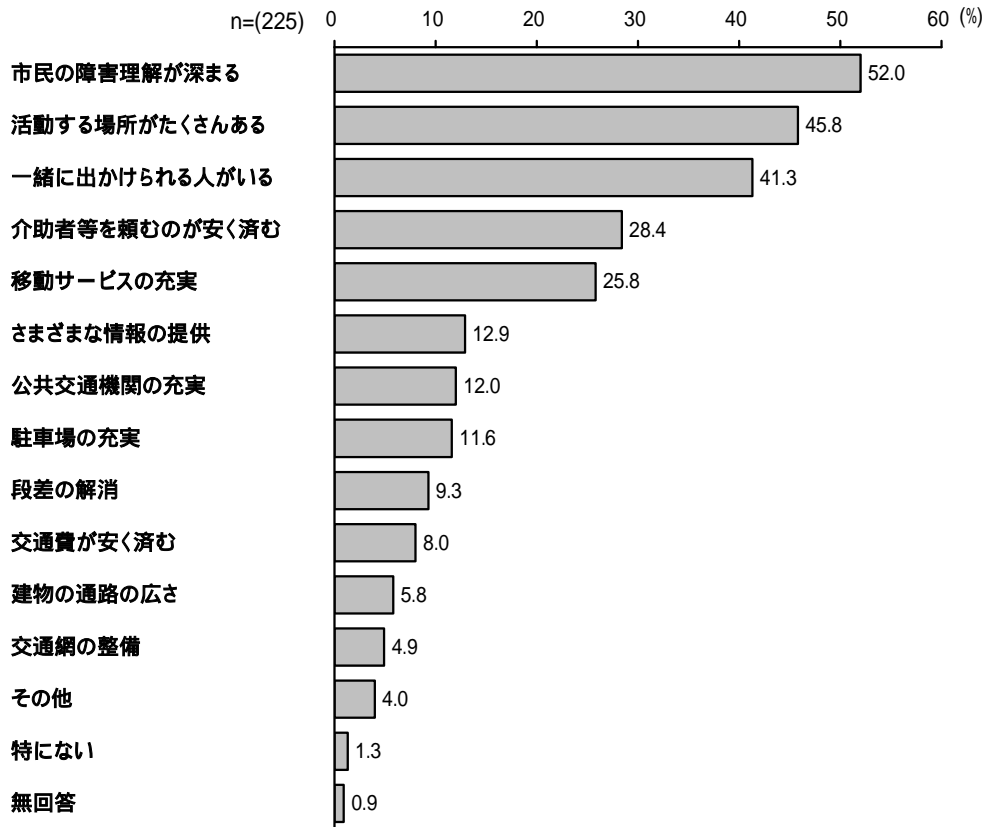
問 26 年々、外出しやすい環境が整ってきていると思いますか。(SA)



年々、外出しやすい環境が整ってきているかについては、「たいへんそう思う」(0.4%)、「そう思う」(27.1%)を合わせた外出しやすい環境が整ってきていると思う人は27.5%となっている。

一方、「そう思わない」(42.7%)、「まったくそう思わない」(10.2%)を合わせた外出しやすい環境が整ってきていると思わない人は52.9%となっている。

問 27 どのような支援があればお子さんはより外出しやすくなりますか。( M A )



より外出しやすくなるために必要なことについては、「市民の障害理解が深まる」(52.0%)が最も多く、以下「活動する場所がたくさんある」(45.8%)、「一緒に出かけられる人がある」(41.3%)となっている。

問 28 25 において「10 地域行事」を選択した方におたずねします。

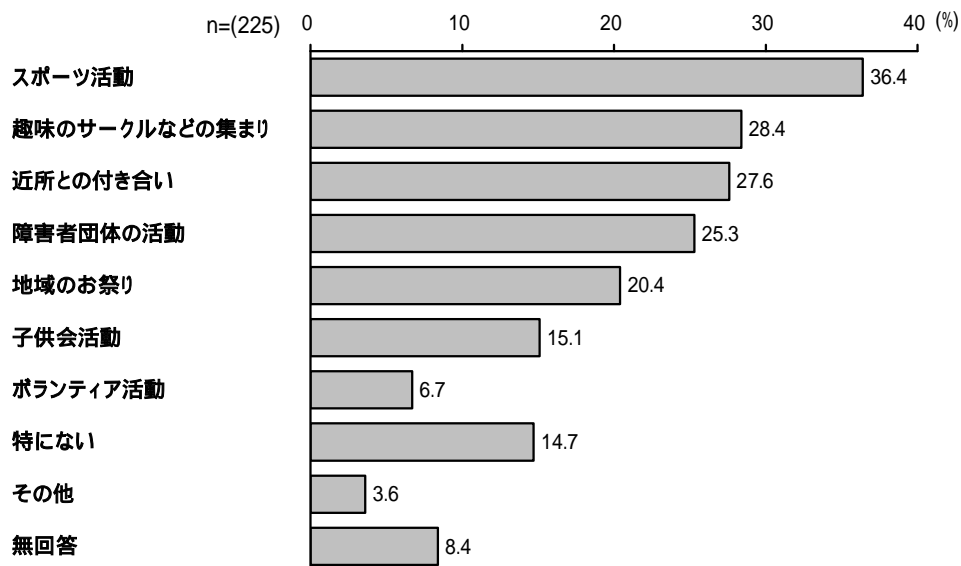
どんな行事に参加しましたか。( M A )

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	地域のお祭り	子供会活動	障害者団体の活動	趣味のサークルなどの集まり	スポーツ活動	ボランティア活動	その他
16	7	7	3	2	2	0	2
100.0	43.8	43.8	18.8	12.5	12.5	0.0	12.5

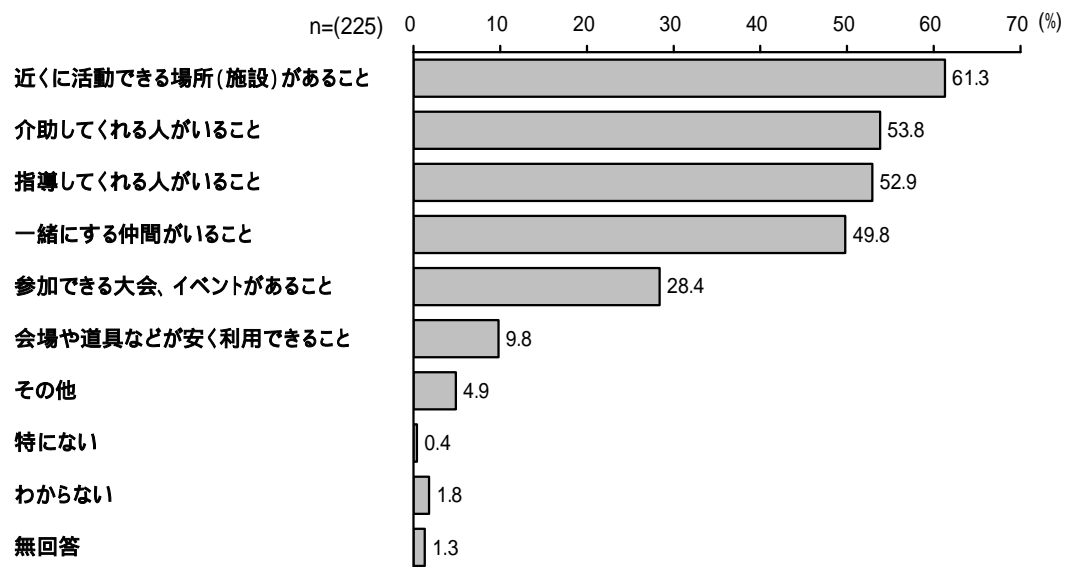
参加したことの地域行事については、「地域のお祭り」、「子供会活動」(ともに7件)がとくに多く、以下「障害者団体の活動」(3件)、「趣味のサークルなどの集まり」、「スポーツ活動」(ともに2件)となっている。

問 29 今後、お子さんが参加してほしい地域活動はどれですか。( M A )



今後参加させたい地域活動については、「スポーツ活動」(36.4%)が最も多く、以下「趣味のサークルなどの集まり」(28.4%)、「近所との付き合い」(27.6%)、「障害者団体の活動」(25.3%)、「地域のお祭り」(20.4%)となっている。

問 30 どのような支援があればお子さんがスポーツや娯楽をより楽しむことができますか。(MA)

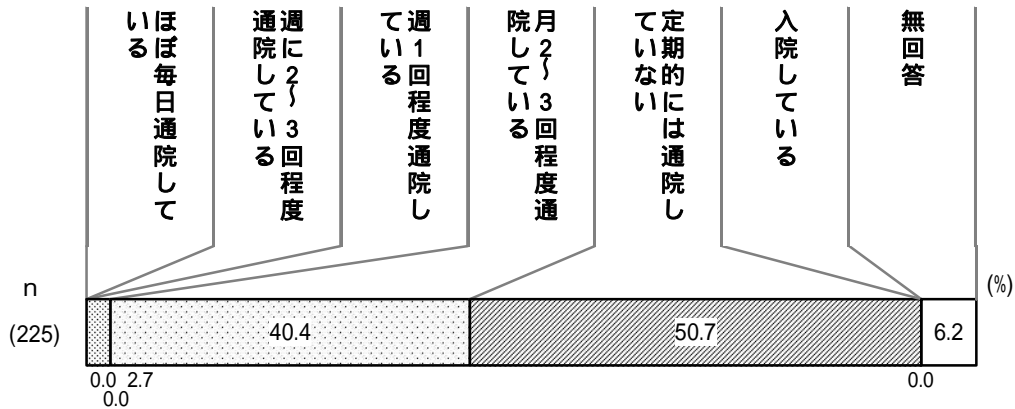


スポーツや娯楽をより楽しむために必要なことについては、「近くに活動できる場所(施設)があること」(61.3%)が最も多く、以下「介助してくれる人がいること」(53.8%)、「指導してくれる人がいること」(52.9%)、「一緒にする仲間がいること」(49.8%)となっている。



#### 4 健康・医療について

問 31 お子さんは普段、定期的に通院していますか。( S A )



定期的通院の有無については、「月2~3回程度通院している」(40.4%)が最も多く、以下「週1回程度通院している」(2.7%)となっている。

一方、「定期的には通院していません」は50.7%となっている。

問 32 31において「1 ほぼ毎日通院している」、「2 週2~3回程度通院している」、「3 週1回程度通院している」、「4 月2~3回程度通院している」のいずれかを選択した方におたずねします。

通院の際に介助は必要ですか。( S A )

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	必要である	必要ない	無回答
97	78	18	1
100.0	80.4	18.6	1.0

通院の際の介助の必要性については、「必要である」が78件となっている。

問 33 32 において「1 必要である」を選択した方におたずねします。

(1) 主な介助者は誰ですか。( S A )

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	配偶者	子ども	親	兄弟姉妹	祖父母	親戚・友人	近所の人	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	介助のために雇った人	ボランティア	施設職員	その他	無回答
78	3	0	64	0	3	0	0	4	0	1	0	0	2	1
100.0	3.8	0.0	82.1	0.0	3.8	0.0	0.0	5.1	0.0	1.3	0.0	0.0	2.6	1.3

通院の際の主な介助者については、「親」(64 件) が最も多くなっている。

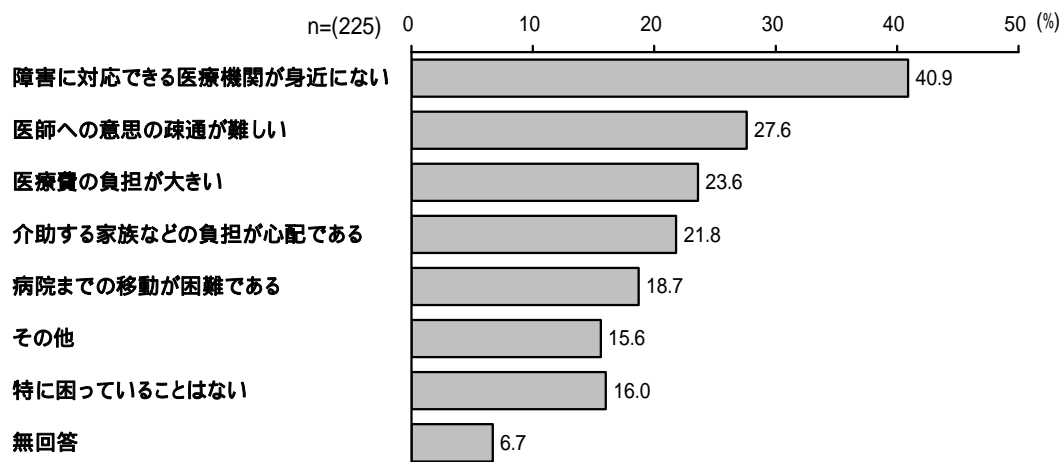
(2)(1) 以外に介助者はいますか。( M A )

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	配偶者	子ども	親	兄弟姉妹	祖父母	親戚・友人	近所の人	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	介助のために雇った人	ボランティア	施設職員	その他	他の介助者はいない	無回答
78	5	1	14	3	9	2	0	3	0	0	0	0	1	40	6
100.0	6.4	1.3	17.9	3.8	11.5	2.6	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	51.3	7.7

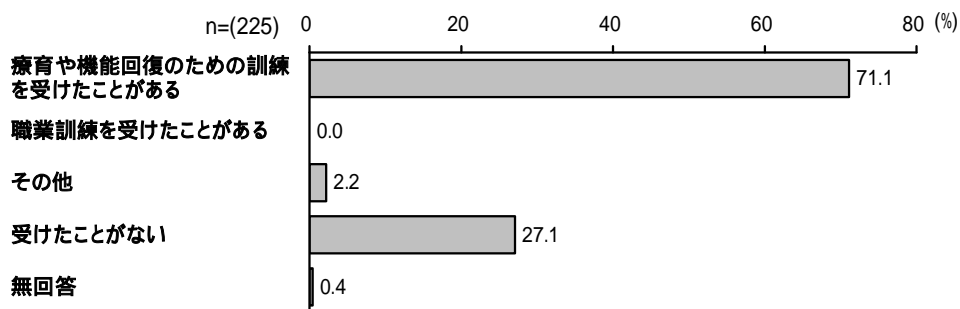
通院の際の主な介助者以外の介助者については、「親」(14 件) が最も多くなっている。  
 なお、「他の介助者はいない」は 40 件となっている。

問 34 医療機関を利用する際に困っていることは何ですか。( M A )



医療機関を利用する際に困っていることについては、「障害に対応できる医療機関が身近にない」(40.9%)が最も多く、以下「医師への意思の疎通が難しい」(27.6%)、「医療費の負担が大きい」(23.6%)、「介助する家族などの負担が心配である」(21.8%)となっている。

問 35 お子さんは、療育や訓練(リハビリテーション)を受けたことがありますか。( M A )

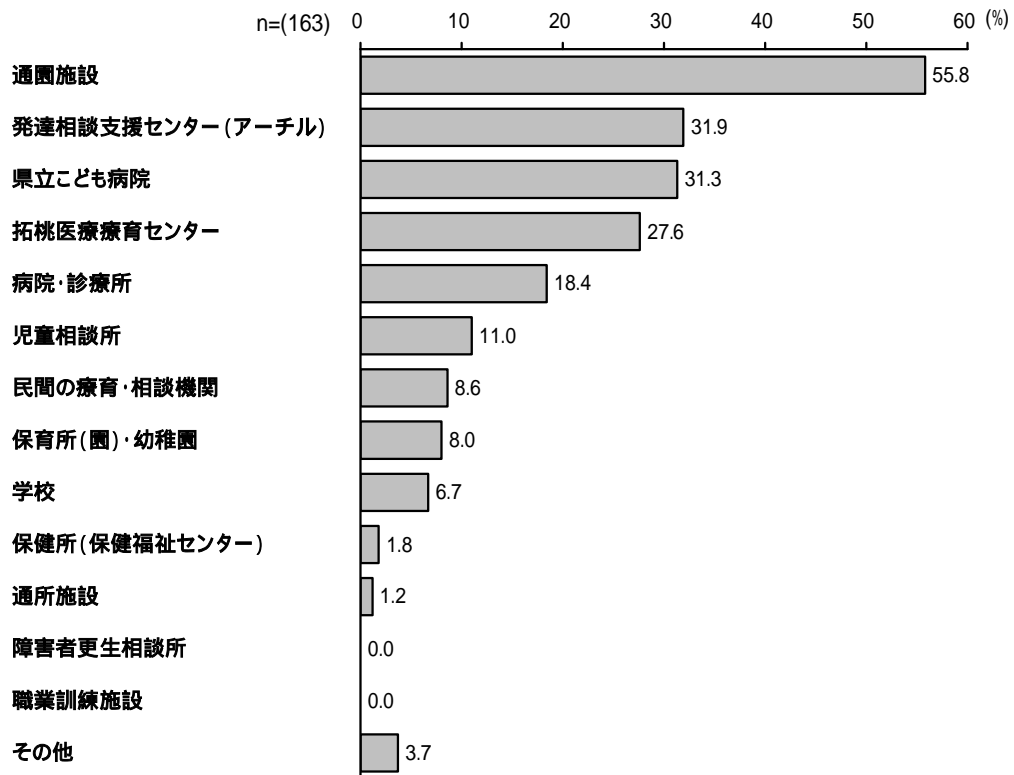


療育や訓練(リハビリテーション)を受けたことの有無については、「療育や機能回復のための訓練を受けたことがある」(71.1%)が最も多くなっている。

なお、「受けたことがない」は27.1%となっている。

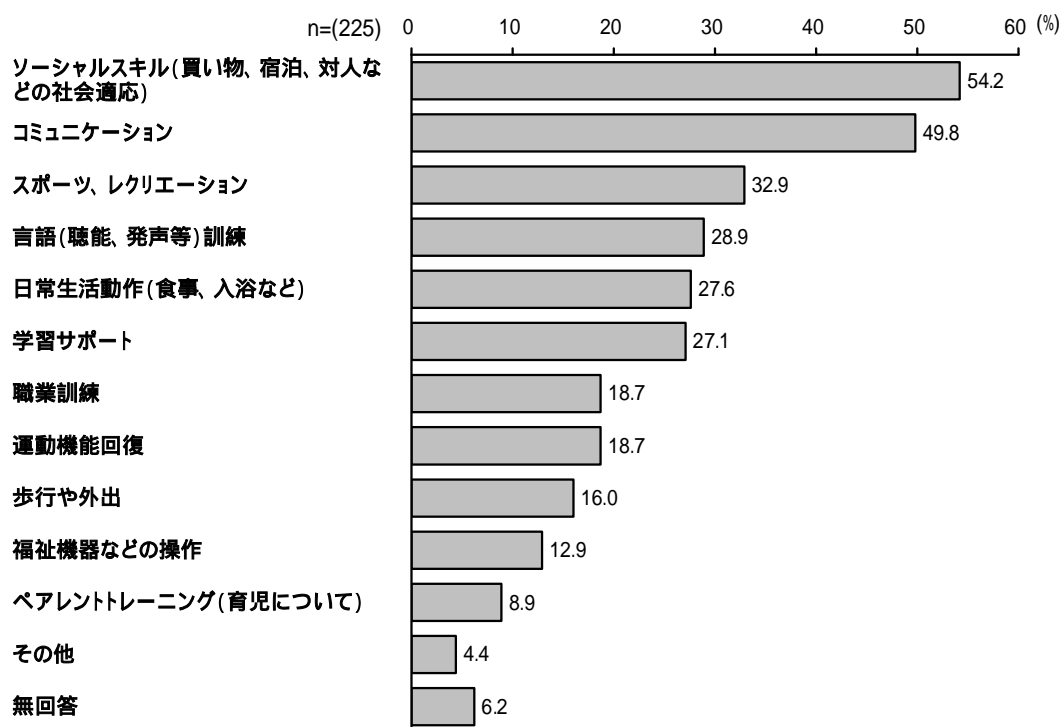
問 36 35 において「1 療育や機能回復のための訓練を受けたことがある」「2 職業訓練を受けたことがある」「3 その他」を選択した方におたずねします。

どこでその訓練を受けましたか。( M A )



療育や訓練(リハビリテーション)を受けた場所については、「通園施設」(55.8%)が最も多く、以下「発達相談支援センター(アーチル)」(31.9%)、「県立こども病院」(31.3%)、「拓桃医療療育センター」(27.6%)となっている。

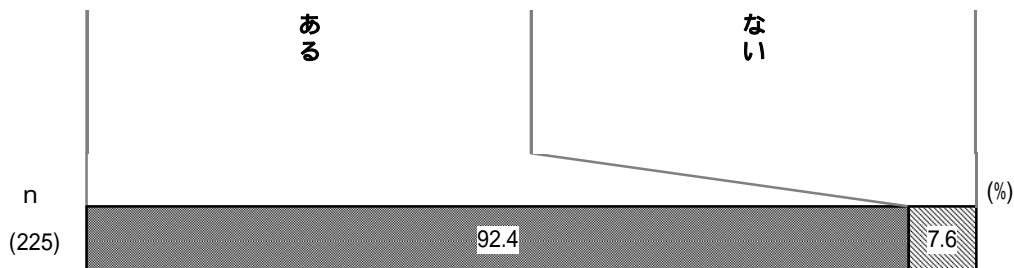
問 37 今後、どのような分野での療育や訓練（リハビリテーション）を望みますか。（MA）



今後希望する、療育や訓練（リハビリテーション）については、「ソーシャルスキル（買い物、宿泊、対人などの社会適応）」（54.2%）、「コミュニケーション」（49.8%）がともに多く、以下「スポーツ・レクリエーション」（32.9%）、「言語（聴能、発声等）訓練」（28.9%）、「日常生活動作（食事、入浴など）」（27.6%）、「学習サポート」（27.1%）となっている。

## 5 福祉サービスについて

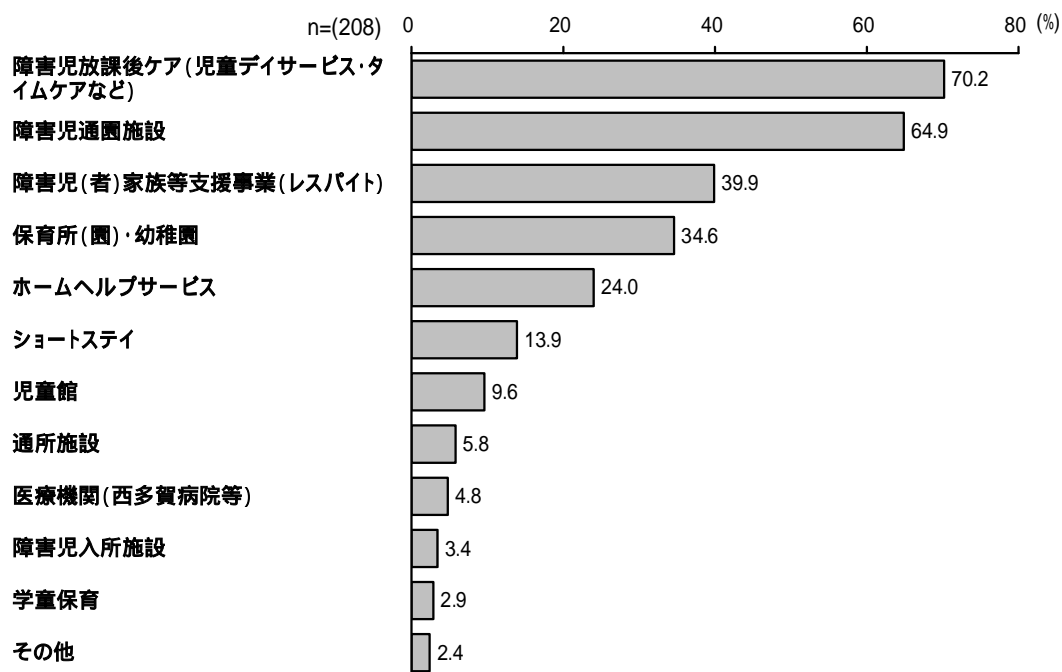
問 38 あなたは障害者の福祉サービスを利用したことがありますか。( S A )



障害者の福祉サービス利用の有無については、利用したことがある人が 92.4%を占めている。

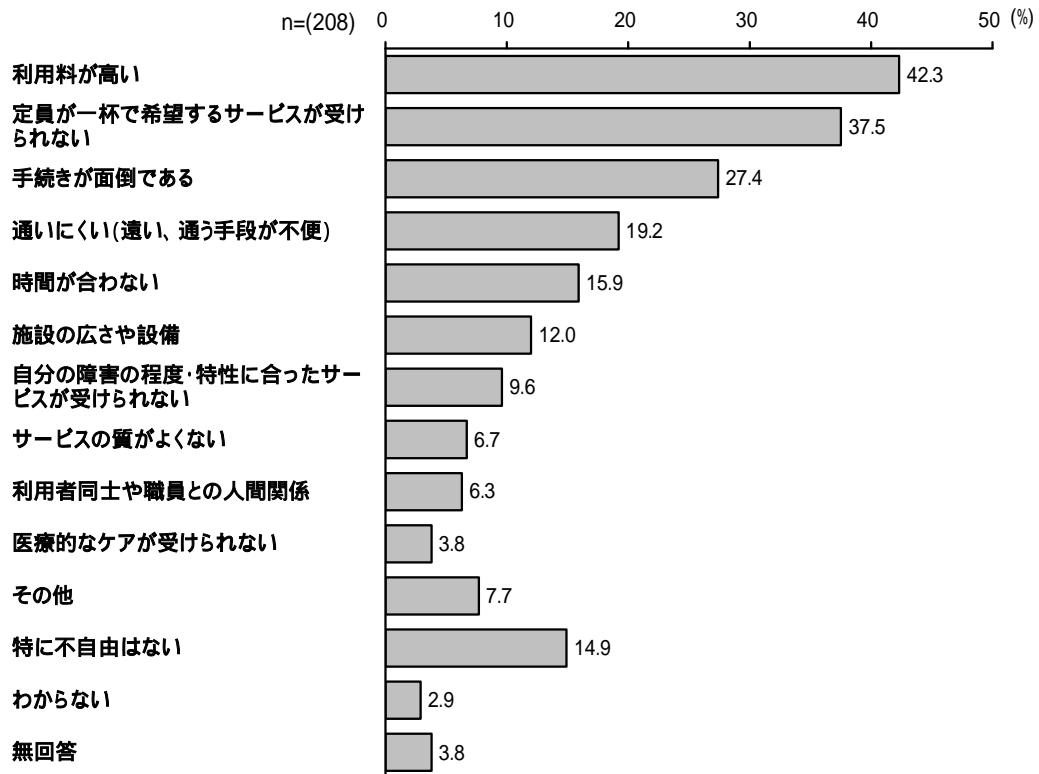
問 39 38 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) これまでにどのような福祉サービスを利用したことがありますか。( M A )



これまでに利用した福祉サービスについては、「障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)」(70.2%)、「障害児通園施設」(64.9%)がともに多く、以下「障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)」(39.9%)、「保育所(園)・幼稚園」(34.6%)、「ホームヘルプサービス」(24.0%)となっている。

(2) 福祉サービスを利用するにあたって不自由していることは何ですか。(MA)



福祉サービスを利用するにあたって不自由していることについては、「利用料が高い」(42.3%)が最も多く、以下「定員が一杯で希望するサービスが受けられない」(37.5%)、「手続きが面倒である」(27.4%)となっている。

【これまでに利用した福祉サービス別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	利用料が高い	定員が一杯で希望するサービスが受けられない	手続きが面倒である	通う手段が不便（遠い、遠い）	時間が合わない	施設の広さや設備	特性に合ったサービスが受けられない	自分の障害の程度・サービスの内容がよい	利用者同士や職員との関係	医療的なケアが受けられない	その他
全体	208 100.0	88 42.3	78 37.5	57 27.4	40 19.2	33 15.9	25 12.0	20 9.6	14 6.7	13 6.3	8 3.8	16 7.7
ホームヘルプサービス	50 100.0	30 60.0	28 56.0	17 34.0	10 20.0	8 16.0	10 20.0	10 20.0	7 14.0	5 10.0	2 4.0	3 6.0
通所施設	12 100.0	6 50.0	8 66.7	2 16.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ショートステイ	29 100.0	16 55.2	22 75.9	11 37.9	8 27.6	8 27.6	8 27.6	3 10.3	6 20.7	4 13.8	2 6.9	1 3.4
障害児通園施設	135 100.0	67 49.6	48 35.6	40 29.6	29 21.5	23 17.0	19 14.1	13 9.6	12 8.9	10 7.4	6 4.4	8 5.9
障害児入所施設	7 100.0	3 42.9	6 85.7	4 57.1	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3
保育所（園）・幼稚園	72 100.0	35 48.6	34 47.2	24 33.3	12 16.7	13 18.1	8 11.1	6 8.3	4 5.6	5 6.9	1 1.4	8 11.1
障害児（者）家族等支援事業（レスパイト）	83 100.0	47 56.6	44 53.0	27 32.5	16 19.3	15 18.1	16 19.3	8 9.6	7 8.4	8 9.6	3 3.6	9 10.8
障害児放課後ケア（児童デイサービス・タイムケアなど）	146 100.0	73 50.0	62 42.5	44 30.1	28 19.2	24 16.4	21 14.4	11 7.5	9 6.2	8 5.5	4 2.7	16 11.0
児童館	20 100.0	8 40.0	7 35.0	8 40.0	3 15.0	6 30.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 20.0
学童保育	6 100.0	3 50.0	5 83.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7
医療機関（西多賀病院等）	10 100.0	7 70.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
その他	5 100.0	2 40.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0

上段：件数 下段：%	特に不自由はない	わからない	無回答
全体	31 14.9	6 2.9	8 3.8
ホームヘルプサービス	3 6.0	0 0.0	1 2.0
通所施設	2 16.7	0 0.0	0 0.0
ショートステイ	1 3.4	0 0.0	0 0.0
障害児通園施設	20 14.8	4 3.0	5 3.7
障害児入所施設	1 14.3	0 0.0	0 0.0
保育所（園）・幼稚園	5 6.9	1 1.4	1 1.4
障害児（者）家族等支援事業（レスパイト）	6 7.2	0 0.0	1 1.2
障害児放課後ケア（児童デイサービス・タイムケアなど）	16 11.0	2 1.4	3 2.1
児童館	2 10.0	1 5.0	0 0.0
学童保育	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医療機関（西多賀病院等）	1 10.0	0 0.0	0 0.0
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0

これまでに利用した福祉サービス別にみると、ホームヘルプサービス、医療機関（西多賀病院）では「利用料が高い」、ショートステイ、障害児入所施設、学童保育では「定員が一杯で希望するサービスが受けられない」がそれぞれ多くなっている。



問 40 38 において「2 ない」を選択した方におたずねします。

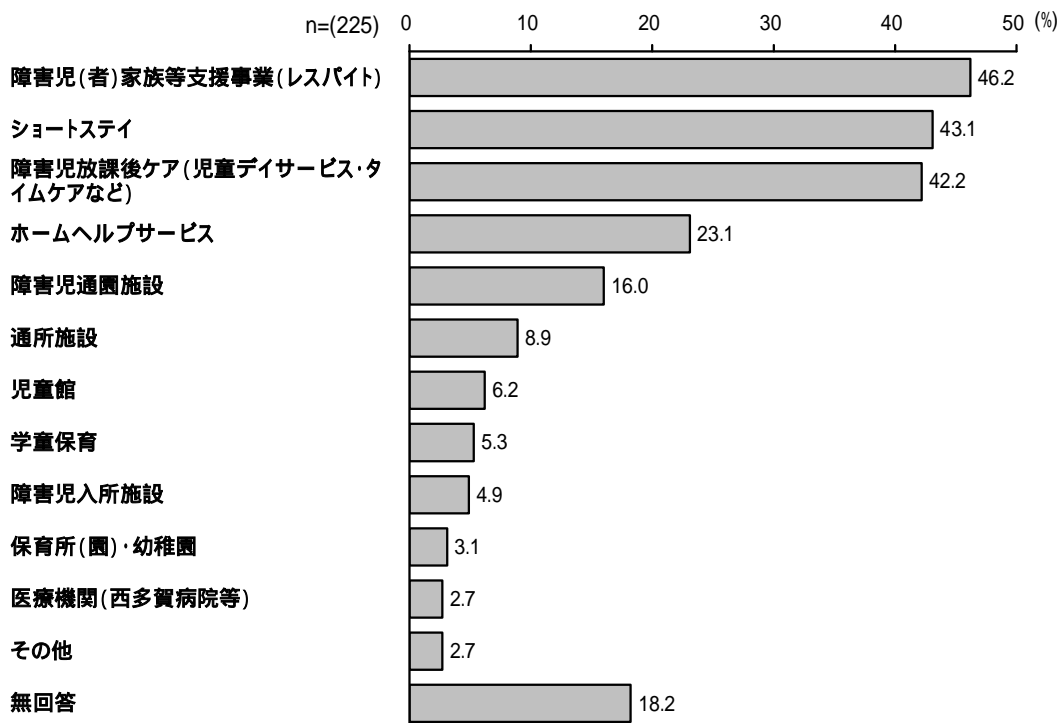
利用しない理由は何ですか。( S A )

( 上段 : 件数、下段 : % )

調査数 ( n )	必要ない	場所が遠い	で定入員れがないつぱい	け医ら療れのないケアが受	さ制れ度の対象外と	か何が利用できるかわからない	その他	無回答
17	4	2	2	1	1	4	0	3
100.0	23.5	11.8	11.8	5.9	5.9	23.5	0.0	17.6

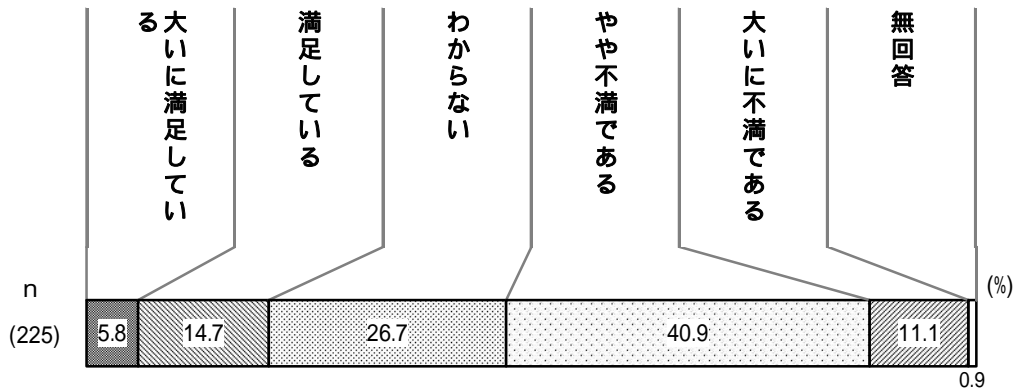
福祉サービスを利用しない理由については、「必要ない」、「何が利用できるかわからない」がともに4件で最も多くなっている。

問 41 利用したいと思う福祉サービスは何ですか。( M A )



今後、利用したいと思う福祉サービスについては、「障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)」(46.2%)が最も多く、以下「ショートステイ」(43.1%)、「障害児放課後ケア事業(児童デイサービス・タイムケアなど)」(42.2%)となっている。

問 42 現在、あなたは仙台市にある障害者の福祉サービスに満足していますか。( S A )



障害者の福祉サービスの満足度では、「大いに満足している」(5.8%)、「満足している」(14.7%)を合わせた《満足している》人は20.5%となっている。

一方、「やや不満である」(40.9%)、「大いに不満である」(11.1%)を合わせた《不満である》人は52.0%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	大いに満足している	満足している	わからない	やや不満である	大いに不満である	無回答
全体	225	13	33	60	92	25	2
	100.0	5.8	14.7	26.7	40.9	11.1	0.9
0～6歳	47	12	9	8	12	6	0
	100.0	25.5	19.1	17.0	25.5	12.8	0.0
7～15歳	137	0	20	38	65	12	2
	100.0	0.0	14.6	27.7	47.4	8.8	1.5
16～18歳	39	0	3	14	15	7	0
	100.0	0.0	7.7	35.9	38.5	17.9	0.0

年齢別にみると、0～6歳では《満足している》人が44.6%、《不満である》人が38.3%と、《満足している》人が《不満である》人を上回っている。一方、7～15歳では《不満である》人が56.2%、16～18歳では56.4%と《不満である》人が過半数を占めている。

問 43 42 において「4 やや不満である」または「5 大いに不満である」を選択した方におたずねします。

特にどのような福祉サービスに不満を感じていますか。(MA)

(1) 就学前(0~6歳)のお子さん

(上段:件数、下段:%)

調査数(n)	ホームヘルプサービス	通所施設	ショートステイ	障害児通園施設	障害児入所施設	障害児を受け入れる保育所(園)・幼稚園	障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)	医療機関(西多賀病院など)	スポーツ、レクリエーションなどを行うサービス	医療的ケアが受けられるサービス	児手帳をもちたい発達障害	その他	無回答
16	1	0	3	7	0	6	4	0	0	0	2	3	1
100.0	6.3	0.0	18.8	43.8	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	18.8	6.3

就学前の子どもの保護者が特に不満を感じる福祉サービスについては、「障害児通園施設」が7件、「障害児を受け入れる保育所(園)・幼稚園」が6件、「障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)」が4件となっている。

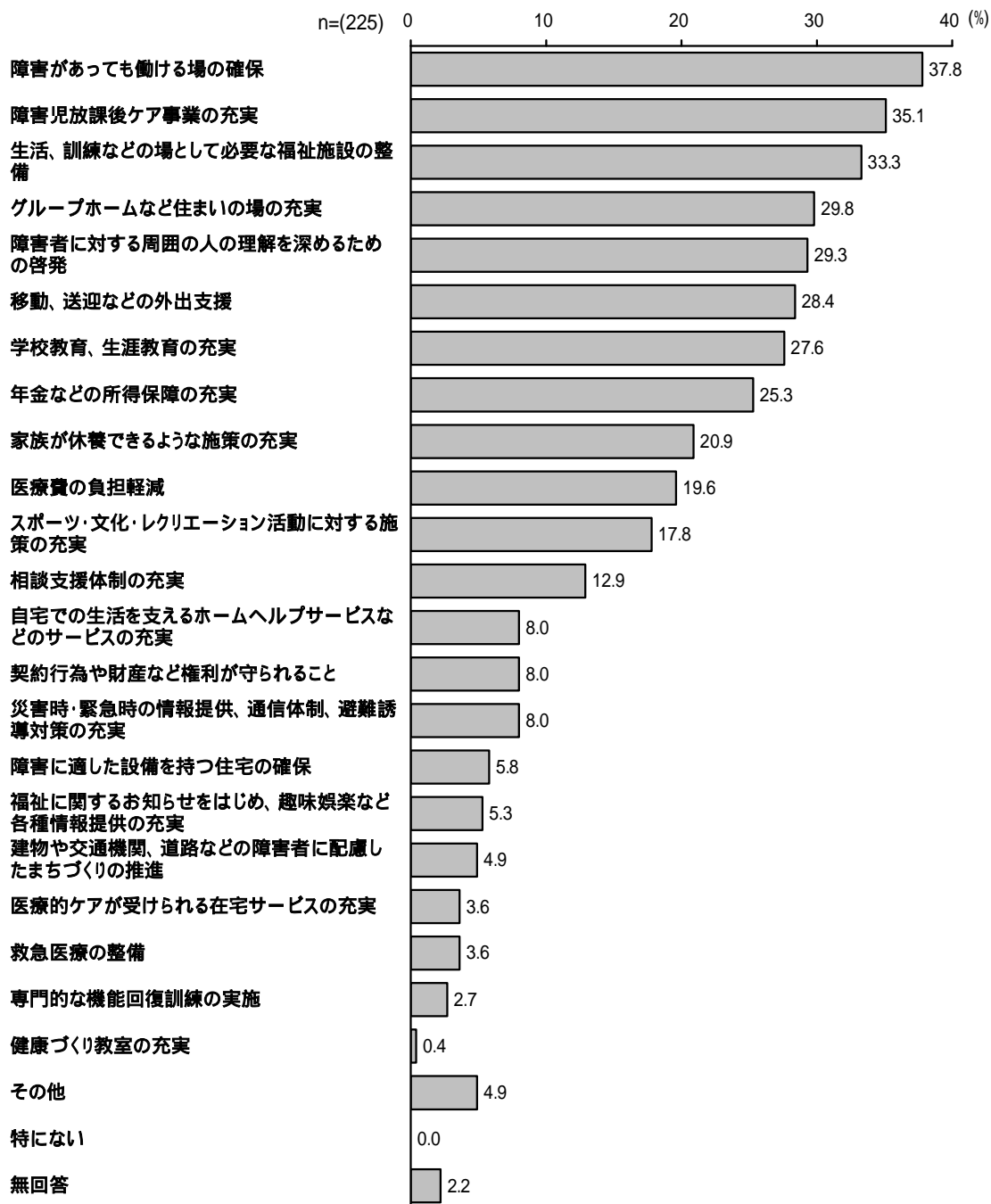
(2) 学齢期のお子さん

(上段:件数、下段:%)

調査数(n)	ホームヘルプサービス	通所施設	ショートステイ	障害児入所施設	障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)	障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)	児童館	学童保育	医療機関(西多賀病院など)	スポーツ、レクリエーションなどを行うサービス	医療的ケアが受けられるサービス	児手帳をもちたい発達障害	その他	無回答
101	16	11	23	1	30	41	3	4	1	15	3	0	9	4
100.0	15.8	10.9	22.8	1.0	29.7	40.6	3.0	4.0	1.0	14.9	3.0	0.0	8.9	4.0

学齢期の子どもの保護者が特に不満を感じる福祉サービスについては、「障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)」(40.6%)が最も多く、以下「障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)」(29.7%)、「ショートステイ」(22.8%)となっている。

問 44 あなたが今後充実してほしい施策は何ですか。( M A )



今後充実してほしい施策については、「障害があっても働ける場の確保」(37.8%)が最も多く、以下「障害児放課後ケア事業の充実」(35.1%)、「生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備」(33.3%)、「グループホームなど住まいの場の充実」(29.8%)、「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」(29.3%)、「移動、送迎などの外出支援」(28.4%)、「学校教育、生涯教育の充実」(27.6%)、「年金などの所得保障の充実」(25.3%)、「家族が休養できるような施策の充実」(20.9%)、「医療費の負担軽減」(19.6%)、「スポーツ・文化・レクリエーション活動に対する施策の充実」(17.8%)となっている。

【年齢別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	障害があっても働ける場の確保	障害児放課後ケア事業の充実	生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備	グループホームなど住まいの場の充実	障害者に対する周囲の啓発の理解を深めるための啓人	援移動、送迎などの外出支	実学校教育、生涯教育の充	実年金などの所得保障の充	家族が休養できるような施策の充実	医療費の負担軽減	スポーツ・文化・レクリエーション活動に対する施策の充実	相談支援体制の充実	自宅での生活を支えるホームヘルプサービスの充実	
全体	225 100.0	85 37.8	79 35.1	75 33.3	67 29.8	66 29.3	64 28.4	62 27.6	57 25.3	47 20.9	44 19.6	40 17.8	29 12.9	18 8.0
0～6歳	47 100.0	8 17.0	17 36.2	29 61.7	3 6.4	25 53.2	12 25.5	26 55.3	5 10.6	4 8.5	24 51.1	2 4.3	10 21.3	0 0.0
7～15歳	137 100.0	61 44.5	57 41.6	37 27.0	40 29.2	32 23.4	40 29.2	32 23.4	35 25.5	36 26.3	17 12.4	30 21.9	14 10.2	10 7.3
16～18歳	39 100.0	15 38.5	4 10.3	9 23.1	24 61.5	7 17.9	11 28.2	3 7.7	17 43.6	7 17.9	2 5.1	8 20.5	4 10.3	8 20.5

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	が契約行われることや財産など権利	災害時の緊急時の避難誘導	住宅に確保した設備を持つ	種はじめ、趣味の充実	福祉に関するお知らせ	子どもの障害者に配慮したま	建物や交通機関、道路な	在宅療養サービスの充実	医療的ケアが受けられる	救急医療の整備	実専門的な機能回復訓練の	健康づくり教室の充実	その他	特にな	無回答
全体	18 8.0	18 8.0	13 5.8	12 5.3	11 4.9	8 3.6	8 3.6	6 2.7	1 0.4	11 4.9	0 0.0	5 2.2			
0～6歳	1 2.1	2 4.3	4 8.5	0 0.0	3 6.4	2 4.3	2 4.3	2 4.3	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0			
7～15歳	13 9.5	12 8.8	8 5.8	8 5.8	7 5.1	4 2.9	6 4.4	4 2.9	1 0.7	6 4.4	0 0.0	3 2.2			
16～18歳	4 10.3	4 10.3	1 2.6	4 10.3	1 2.6	2 5.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 10.3	0 0.0	2 5.1			

年齢別にみると、「障害があっても働ける場の確保」は7～15歳、16～18歳と就職を意識した年代に多く、「障害児放課後ケア事業の充実」は0～6歳、7～15歳の学齢期に多くなっている。

さらに、0～6歳の就学前では、「生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備」、「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」、「学校教育、生涯教育の充実」、「医療費の負担軽減」、「相談支援体制の充実」が他の年代に比べて多くなっている。

【療育手帳の有無別】

調査数 (n)	障害があっても働ける場の確保	障害児放課後ケア事業の充実	生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備	グループホームなど住まいの場の充実	障害者に対する周囲の理解を深めるための啓発	移動、送迎などの外出支援	学校教育、生涯教育の充実	年金などの所得保障の充実	家族が休養できるような施策の充実	医療費の負担軽減	スポーツ・文化・レクリエーション活動に対する施策の充実	相談支援体制の充実	自宅での生活を支えるためのサービス充実
全体	85 100.0	79 35.1	75 33.3	67 29.8	66 29.3	64 28.4	62 27.6	57 25.3	47 20.9	44 19.6	40 17.8	29 12.9	18 8.0
療育手帳Aを持っている	131 100.0	41 31.3	49 37.4	47 35.9	47 35.9	47 35.9	25 19.1	33 25.2	39 29.8	21 16.0	19 14.5	15 11.5	14 10.7
療育手帳Bを持っている	57 100.0	36 63.2	22 38.6	14 24.6	15 26.3	8 14.0	19 33.3	17 29.8	3 5.3	8 14.0	17 29.8	6 10.5	2 3.5
持っていない	23 100.0	3 13.0	4 17.4	12 52.2	1 4.3	5 21.7	14 60.9	3 13.0	2 8.7	12 52.2	1 4.3	3 13.0	1 4.3
わからない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

調査数 (n)	が契約されることや財産など権利の確保	対策の充実	災害時の緊急時の情報提供	住宅に適切な設備を持つ	種情報は提供した	福祉に関するお知らせ	ちづの障害者の推進	建物や交通機関、道路などの整備	在宅的ケアが受けられる	救急医療の整備	専門的な機能回復訓練の充実	健康づくり教室の充実	その他	特にな	無回答
全体	18 8.0	18 8.0	13 5.8	12 5.3	11 4.9	8 3.6	8 3.6	6 2.7	1 0.4	11 4.9	0 0.0	5 2.2	0 0.0	0 0.0	5 2.2
療育手帳Aを持っている	11 8.4	11 8.4	6 4.6	6 4.6	6 4.6	5 3.8	6 4.6	3 2.3	1 0.8	8 6.1	0 0.0	3 2.3	0 0.0	0 0.0	3 2.3
療育手帳Bを持っている	6 10.5	6 10.5	4 7.0	5 8.8	4 7.0	1 1.8	1 1.8	1 1.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.5	0 0.0	0 0.0	2 3.5
持っていない	1 4.3	0 0.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	2 8.7	0 0.0	2 8.7	0 0.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

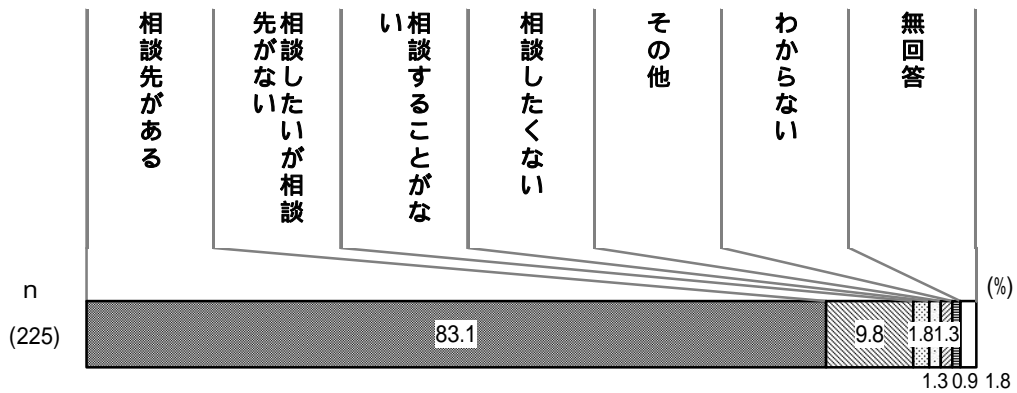
療育手帳の有無別にみると、療育手帳A所持者では「グループホームなど住まいの場の充実」、「移動、送迎などの外出支援」がともに35.9%、「家族が休養できるような施策の充実」が29.8%と他の療育手帳所持状況に比べて多くなっている。

療育手帳B所持者では「障害があっても働ける場の確保」が63.2%と他の療育手帳所持状況に比べて多くなっている。

療育手帳非所持者では「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」、「学校教育、生涯教育の充実」がともに60.9%、「生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備」、「医療費の負担軽減」がともに52.2%と他の療育手帳所持状況に比べて多くなっている。

## 6 相談機能について

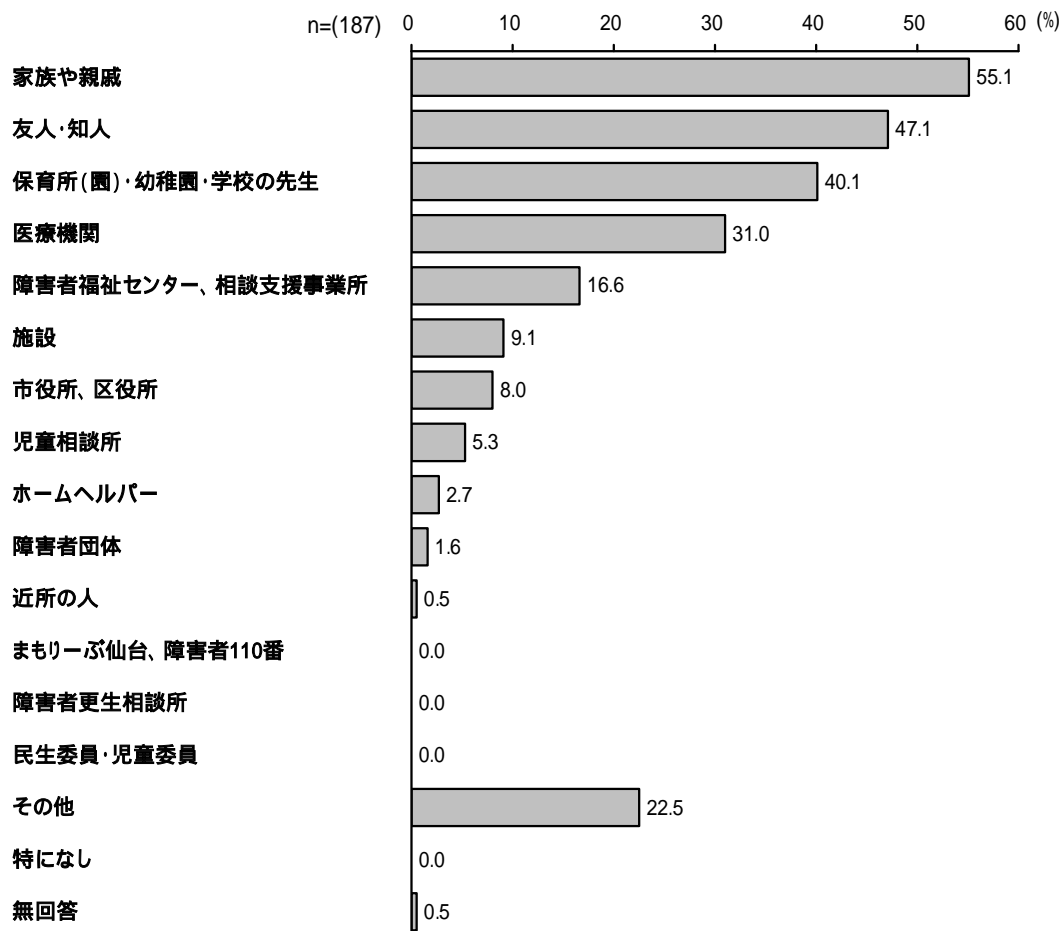
問 45 あなたがお子さんのことで困ったときの相談について次のうちあてはまるのは何ですか。(S A)



困ったときの相談先の有無については、「相談先がある」が83.1%を占めている。その一方で、「相談したいが相談先がない」が9.8%となっている。

問 46 45 において「1 相談先がある」を選択した方におたずねします。

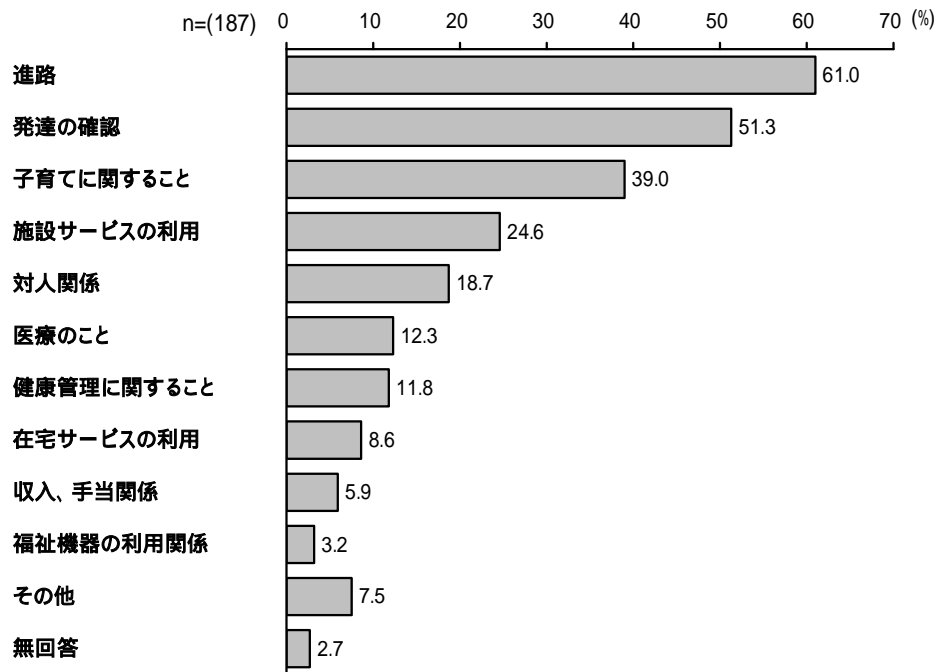
(1) あなたの相談相手はどなたですか。(MA)



困ったときの相談相手については、「家族や親戚」(55.1%)が最も多く、以下「友人・知人」(47.1%)、「保育所(園)・幼稚園・学校の先生」(40.1%)となっている。

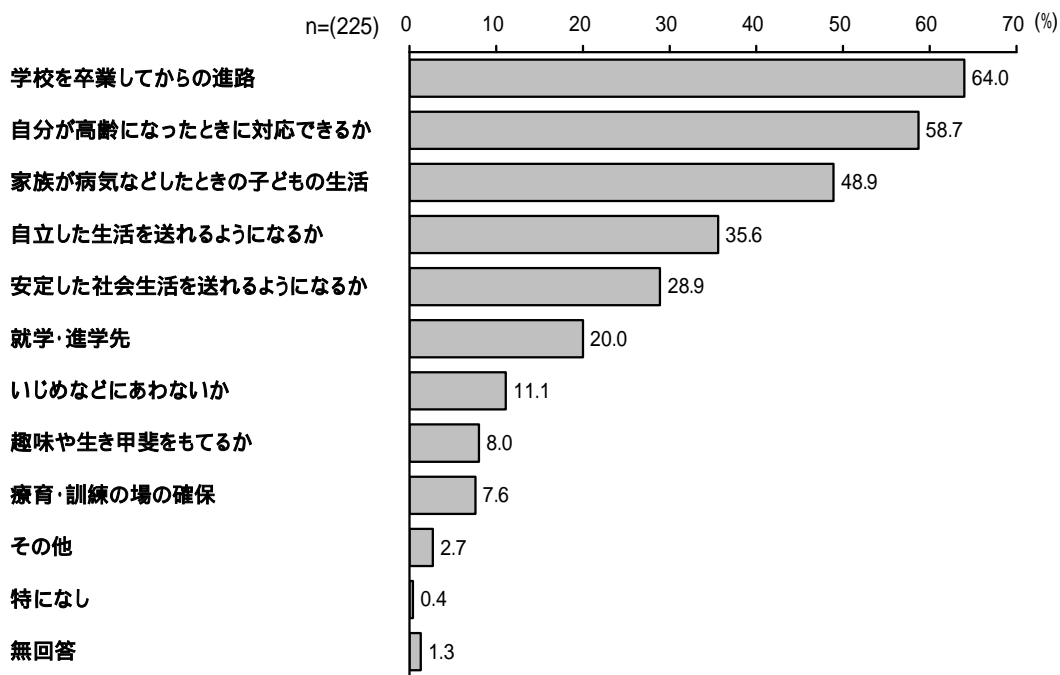


(2) あなたがお子さんのことで相談していること(したいこと)は何ですか。(MA)



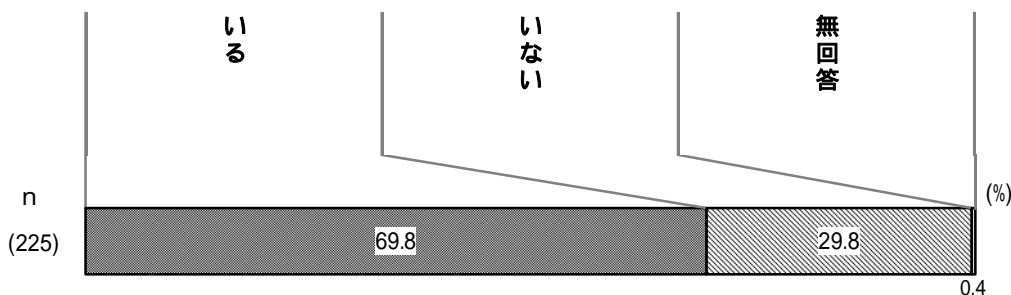
困ったときの相談相手に相談していることについては、「進路」(61.0%)が最も多く、以下「発達の確認」(51.3%)、「子育てに関すること」(39.0%)となっている。

問 47 今後、あなたはお子さんのことで不安を感じていることは何ですか。( M A )



今後、子どものことで不安を感じていることについては、「学校を卒業してからの進路」(64.0%)が最も多く、以下「自分が高齢になったときに対応できるか」(58.7%)、「家族が病気などしたときの子どもの生活」(48.9%)となっている。

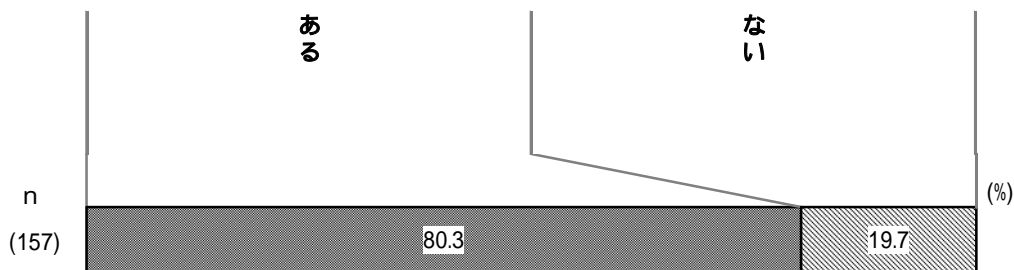
問 48 お子さんに、兄弟姉妹はいらっしゃいますか。( S A )



障害児の兄弟姉妹の有無については、兄弟姉妹がいる人が 69.8%、いない人が 29.8%となっている。

問 49 48 において、兄弟姉妹が「1 いる」を選択した方におたずねします。

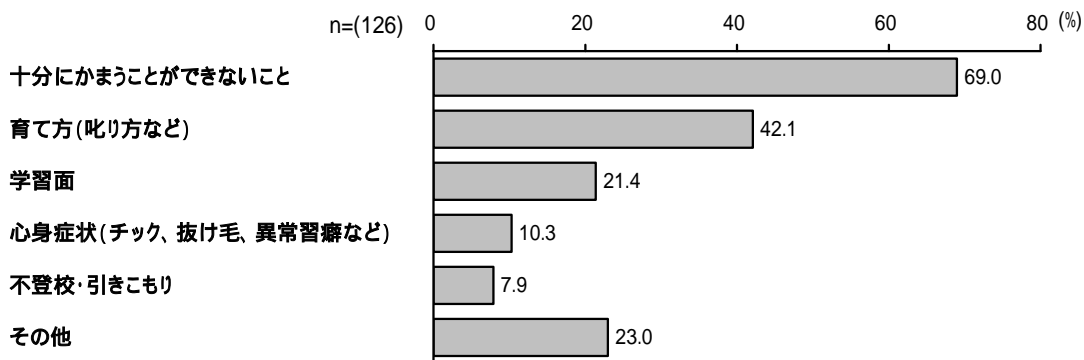
(1) 兄弟姉妹のことで、不安に思ったことや困ったことはありますか。( S A )



障害児の兄弟姉妹のことで不安や困ったことの有無については、困ったことがある人が 80.3% を占めている。

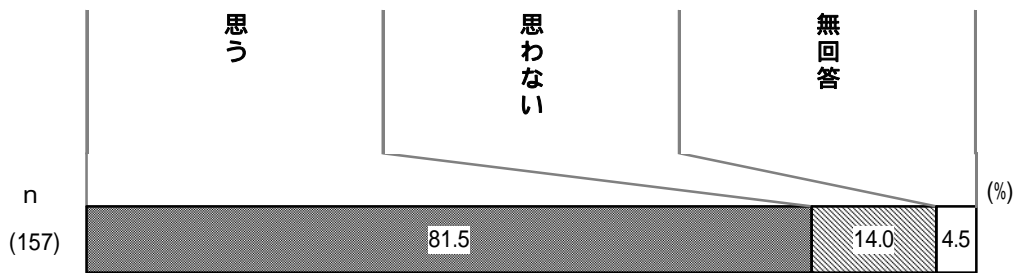
(2)(1) において「1 ある」を選択した方におたずねします。

具体的にどのようなことでお困りになりましたか。( M A )



障害児の兄弟姉妹のことで不安や困ったことについては、「十分にかまうことができないこと」( 69.0% ) が最も多く、以下「育て方(叱り方など)」( 42.1% ) となっている。

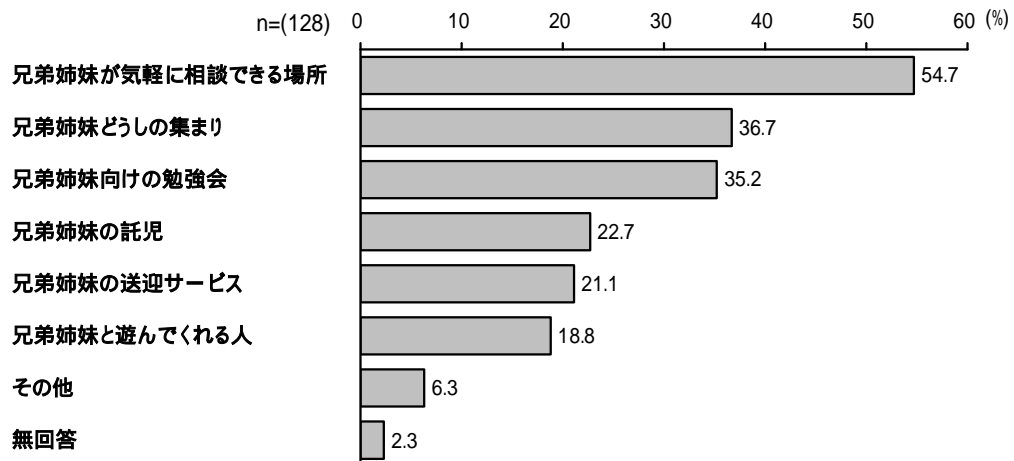
(3) 兄弟姉妹への支援は必要と思いますか。( S A )



障害児の兄弟姉妹への支援の必要性については、支援が必要だと思う人が81.5%を占めている。

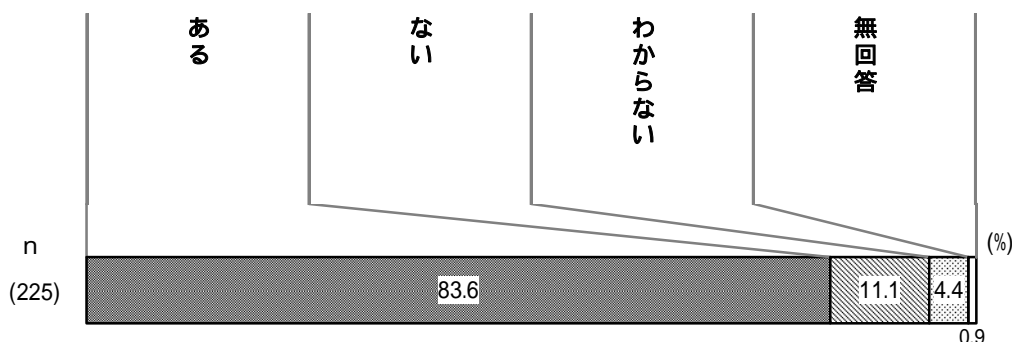
(4)(3)において「1 思う」を選択した方におたずねします。

具体的にどのような支援があると望ましいと考えますか。( M A )



希望する障害児の兄弟姉妹への支援内容については、「兄弟姉妹が気軽に相談できる場所」(54.7%)が最も多く、以下「兄弟姉妹どうしの集まり」(36.7%)、「兄弟姉妹向けの勉強会」(35.2%)となっている。

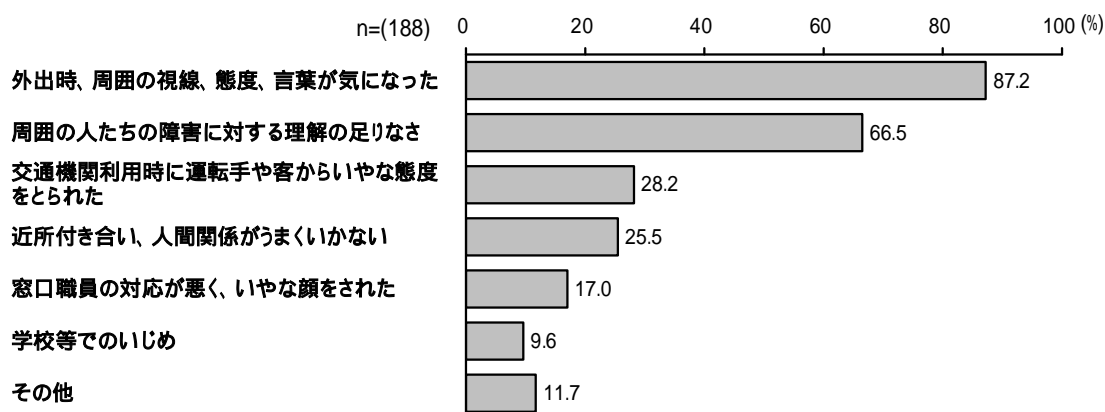
問 50 あなたはお子さんに障害があることで差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。( S A )



障害を理由に差別を受けたり、いやな思いをしたことの有無については、いやな思いをしたことがある人が 83.6%を占めている。

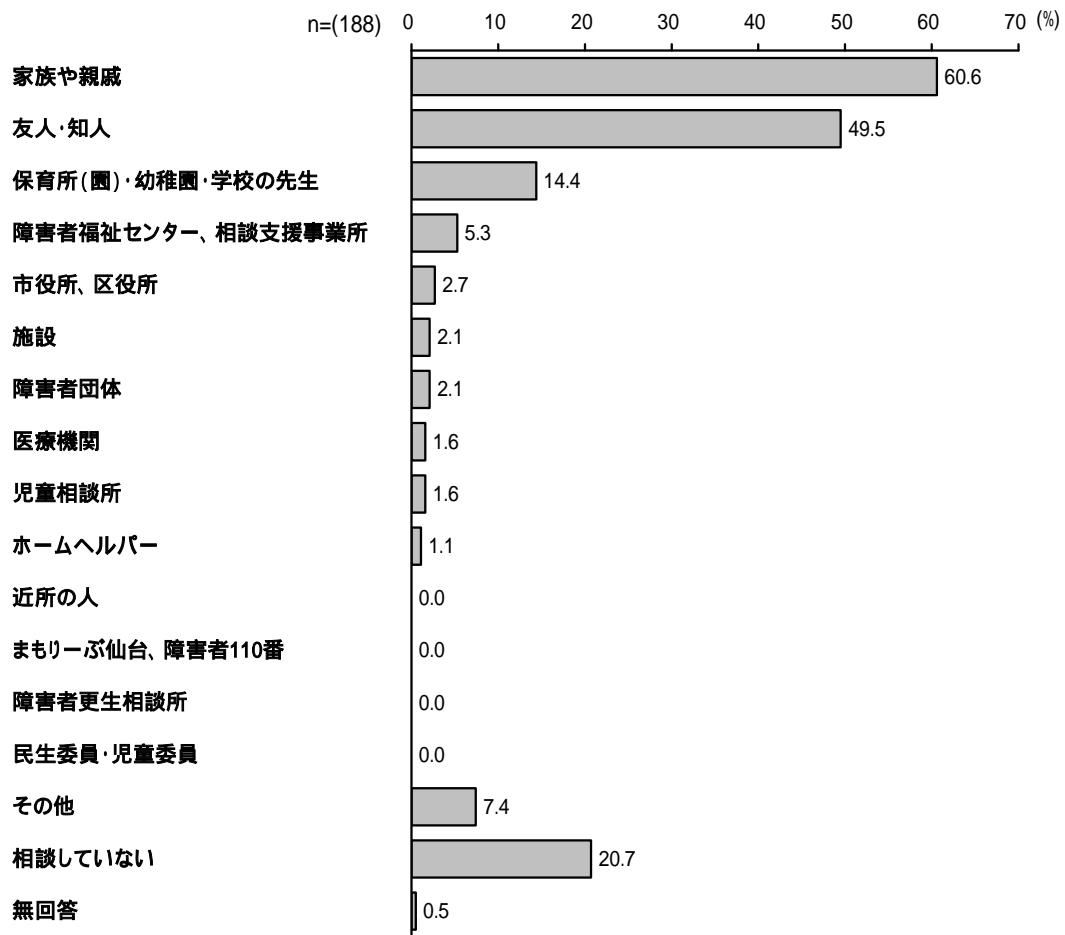
問 51 50 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) あなたは、どのような内容の差別を受けたり、いやな思いをしましたか。( M A )



受けた差別やいやな思いの内容については、「外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった」(87.2%)が最も多く、以下「周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ」(66.5%)、「交通機関利用時に運転手や客からいやな態度をとられた」(28.2%)、「近所付き合い、人間関係がうまくいかない」(25.5%)となっている。

(2) 差別を受けたり、いやな思いをしたときに誰かに相談しましたか。(M A)



差別を受けたり、いやな思いをしたときの相談先については、「家族や親戚」(60.6%)が最も多く、以下「友人・知人」(49.5%)となっている。

なお、「相談していない」は20.7%となっている。

(3)(2)において「16 相談していない」を選択した方におたずねします。

相談しない理由は何ですか。( S A )

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	相談先がない	相談したくない	その他	わからない
39 100.0	9 23.1	7 17.9	20 51.3	3 7.7

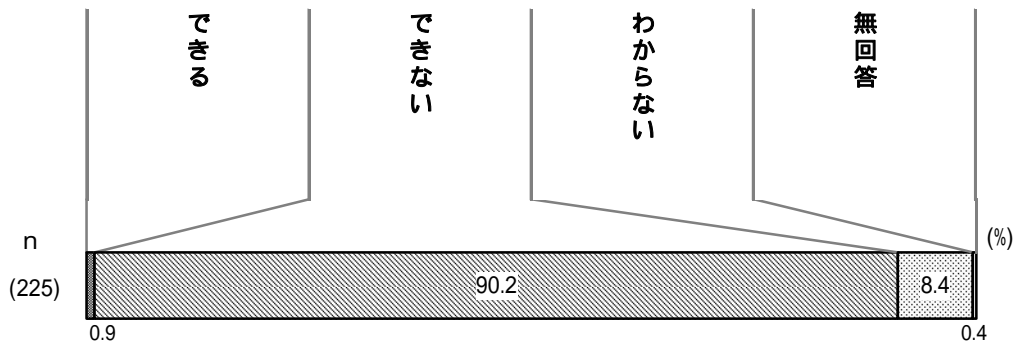
差別やいやな思いを相談しない理由については、「相談先がない」が9件、「相談したくない」が7件となっている。

なお、「その他」(20件)の内容として、「相談しても仕方がない」との回答が多くなっている。

## 7 災害関係について

問 52 お子さんは、地震などの災害発生時、一人で避難することができますか。

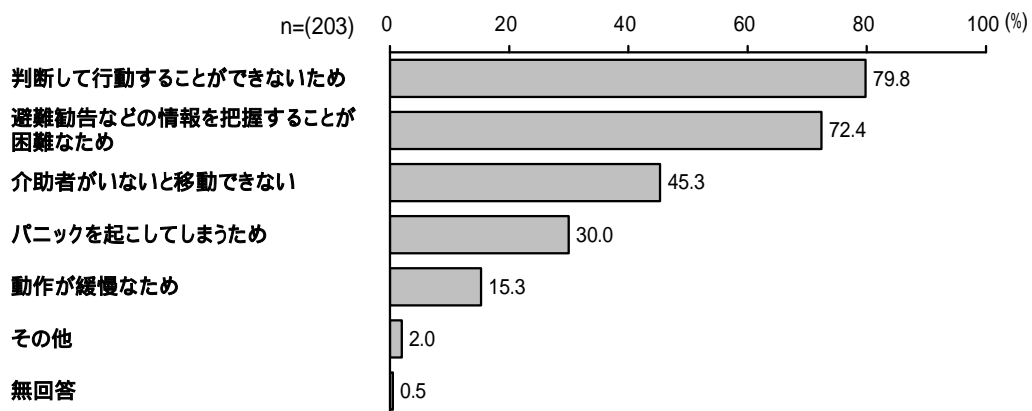
( S A )



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、「できない」が90.2%を占めている。

問 53 52において「2 できない」を選択した方におたずねします。

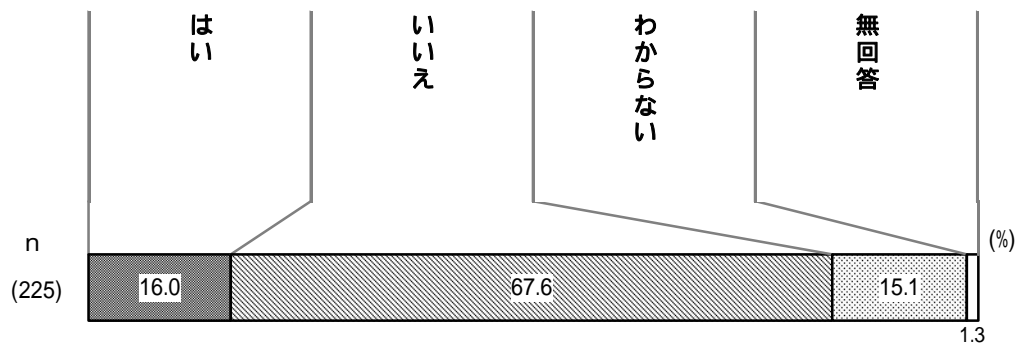
災害のとき一人で避難することができない理由は何ですか。( M A )



災害のとき一人で避難することができない理由については、「判断して行動することができないため」(79.8%)、「避難勧告などの情報を把握することが困難なため」(72.4%)がともに多く、以下「介助者がいないと移動できない」(45.3%)となっている。

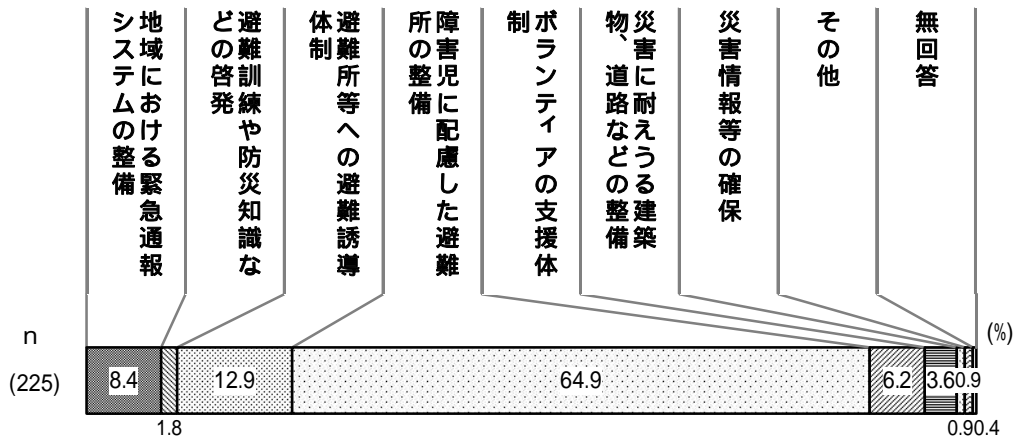


問 54 お子さんはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。( S A )



住んでいる地区の避難所の場所の認知については、知っている人が 16.0%、知らない人が 67.6% となっている。

問 55 地震、台風などの災害に対して、もっとも大切と思う対策はどんなことだと思いますか。( S A )



地震、台風などの災害に対して最も大切と思う対策については、「障害児に配慮した避難所の整備」(64.9%) が最も多く、以下「避難所等への避難誘導体制」(12.9%) となっている。

【療育手帳の有無別】

	調査数 (n)	地域における緊急通報システムの整備	避難訓練や防災知識などの啓発	避難所等への避難誘導体制	障害児に配慮した避難所の整備	ボランティアの支援体制	災害に耐えうる建築物、道路などの整備	災害情報等の確保	その他	無回答
全体	225	19	4	29	146	14	8	2	2	1
	100.0	8.4	1.8	12.9	64.9	6.2	3.6	0.9	0.9	0.4
療育手帳Aを持っている	131	9	0	15	92	12	1	0	1	1
	100.0	6.9	0.0	11.5	70.2	9.2	0.8	0.0	0.8	0.8
療育手帳Bを持っている	57	6	2	8	32	2	5	1	1	0
	100.0	10.5	3.5	14.0	56.1	3.5	8.8	1.8	1.8	0.0
持っていない	23	2	1	4	13	0	2	1	0	0
	100.0	8.7	4.3	17.4	56.5	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0
わからない	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

療育手帳の有無別にみると、「障害児に配慮した避難所の整備」が療育手帳A所持者で70.2%、療育手帳B所持者で56.1%、療育手帳非所持者で56.5%と多く、全体の傾向と同様になっている。

## 8 心身障害児の家族の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は97件であった。以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

手続きなどで、役所にいかなければならないことが多いが、障がい児を連れて手続きをするのが困難なので、ネットや、郵送で対処できるようにしてほしい。緊急の預け先が困るので、できるだけ、理解のある、レスパイトやショートステイを増やしてほしい。福祉サービスなど、窓口では説明されず、友人からも聞くことも多い。受けられるサービスはちゃんと教えてほしい。うちは歩行困難なため、身障者手帳をもらえたが、療育手帳のみの自閉症児などにも。座位保持イスや、カーシートなどの支給ができるようにしてほしい。子どもが大きくなり、市販の物では対処できずに困っている親が多いです。1割負担じゃなくても、自費でもいいから買えるようにしてほしい。

小学生の時には児童デイサービスがあり、お金の負担が少なかったのですが、中学生になり、「タイムケア」になってからは負担が多くなり、悩んでいます。自閉症でも重度で話すこともできず、留守番も任せられないので、タイムケアサービスを使うしかありません。仕事をしたくても預ける金額を考えるとあまり意味がありません（自立登校もできず、送迎しています）。中学生も義務教育だし、特別支援学校に通うことも小学生の時とあまり変化はないので、負担が多いのは本当に困ります（利用時間が同じでも倍以上の金額です）。見直していただけると助かります。よろしく願いいたします。

相談したいことが今すぐにあっても、アーチルなど、予約がいっぱいで先延ばしになってしまいます。困っている時、または子どものことですぐ対応してほしいときなど、予約無しでも対応していただけたところがあると助かります。また、特別支援学校、支援学校の教師は志の高いアイデアいっぱい先生になってほしいです。

デイケア、日中預かりなど、医療行為（吸引、注入など）がある子のことを預かる場所がなく困っている。自分（介護側）が急病の際、主人に仕事を休んでもらっているのが現状です。

地域によって受けられる訓練がかなり違う。子育ての中の本人は日々の生活で精一杯なので、医療機関関係者の方から、必要だと思える訓練などを、どんどん受けられるように取組んでいていただきたいと思います。兄弟児との時間を持つための土日などに使えるタイムケアがたくさんあると嬉しいです。

障がい者に対する理解が、地域には全くありません。特に高齢者にその傾向が多いです。障がいのことを話しても、親が冷たい目で見られます。もっと、障がい者が住みやすい環境が必要と感じていますし、多くの人に理解してほしいと思います。

将来の就労先の選択肢が少なすぎる。待遇の改善と就労の幅を広げ、健常者も障がい者も共生、協働できる環境や、法の整備が必要。障がい児も学校では学ぶことを優先し、教養を高めるような教育体制が充実され、放課後にアルバイトのような形で就労移行支援のシステムができるといいと思う。子どもたちは学ぶことの楽しさと、働くことの意義を同じ時期に身に付けられるとよいと考えます。そのためには、学校の時間は教育を優先してほしいと思う。文科省と厚労省の連携が必須と考えますが、仙台市で、先進的に取組めるとよいと思います。できれば、障がい児も納税者にできるよう、新たなシステム作りが必要ではないでしょうか。

特別支援学級がいっぱいの状態を1日も早く改善してください。1日の大半を学校で過しています。学校の充実と、先生の質を上げてほしい。先生の中には、あまりにも、障がい児への理解に乏しく、何故ここにいるのという先生が多い。

アンケートなどでも、全体的に知的障がい側に偏っていると思う。知的、身体不自由との重複障がいを持つ子ども、親のことも視野に入れてサービス制度、設備など考えてほしい。ショートステイの利用手続きは役所に届けていますが、子どもが身体障がいで全介助な行為、近場で受け入れてもらえる施設がなく、結局利用できる状況ではありません。制度だけを作るのではなく、そういう現状も把握してほしいです。